

## 福島市民憲章作文コンクールに寄せて

福島市民憲章についての啓発・啓蒙活動の一環として、市内中学一年生の皆さんを対象として作文の公募をしたところ、六十六点の作品を寄せていただきましたことに感謝申し上げます。

早速、全作品を拝読したところ、市民憲章の理念を良く理解し、若々しい感性と鋭い感受性を駆使して日頃の生活の中で「気づいたこと」や「考えていること」を率直に文章に表していただきました。

特に、一昨年三月十一日に発生した東日本大震災とそれに伴う原発爆発事故によりふる里福島が放射能に汚染され家族との別居や友だちとの別れなど悲しい出来事が起きたことから一日も早い復旧・復興へ向けて行政当局にお願いしたいことや自分に何ができるかを自問する声もありました。

また、住環境の問題点も多く提案され、身近な河川の汚染問題や公道や公園でのたばこの吸い殻や空き缶のポイ捨ての現状から市民の道徳心や大人の行動への苦言も多くありました。

一方、地区祭礼における太鼓や笛などの練習を通じて無形文化の継承の大切さや異世代の人々との交流のすばらしさなど大人の知恵や技能を称える提言もありました。

市民憲章に謳ってある良い街づくりは、そこに住む住民が市行政当局に依存して実現できるものではありません。まして、住民が法的・道徳的に何も悪いことをしないで生活を送っていればいいと

いった消極的な考えで実現するものでもありません。自分の身近で気になる光景や疑問に感じた事象に何らかのアクション（行動）を起こす勇氣と社会性を身につけて、地域の一員としての自覚を持つて主体的に参加することによって実現できるものであると思います。

東日本大震災の被災地に全国各地からボランティア活動に参加している人々がテレビ、新聞等で紹介されているのを良く目にしますし、卑近な例では地域の子どもたちを守るために放射性物質を除去しようと一斉清掃に取り組む渡利地区、蓬萊地区等の住民の皆さんの行動などは顕著な例であります。

中学生の皆さんは、氣恥ずかしさが先行して思っていることの半分も行動に移すことができないかもしれませんが、決して恥ずべき事ではありません。これからの学校生活を充実させ、学習に部活動に一生懸命に取り組むことにより心身を鍛え、地域の、そして福島市の一員として良き街づくりに参画する有為な人間になってほしいと思います。

最後に、各学校で作文指導にあたってくださいました先生方はじめ関係各位に対しまして衷心より御礼を申し述べ挨拶といたします。

平成二十五年一月

福島市民憲章推進協議会会長

両 國 茂

# 目次

## ◆金賞

一人一人ができること

福島市立福島第二中学校 佐藤穂佳……………1

## ◆銀賞

親切な心が町をつなぐ  
水もきれいなまち、福島

福島市立松陵中学校 尾形董……………2  
福島市立北信中学校 永倉健裕……………3

## ◆銅賞

故郷『福島』への思い  
I LOVE福島  
希望に輝くまち

福島市立北信中学校 栗田悠真……………4  
福島市立信夫中学校 三浦奏美……………5  
福島市立飯野中学校 齋藤千夏……………6

## ◆佳作

福島をきれいなまちに  
私の大好きな福島市を守るために  
福島市民憲章について  
『教育』『文化』を大切に…。  
大好きな福島の未来  
『福島市民憲章』を知って

福島市立蓬萊中学校 永田夏央……………7  
福島市立蓬萊中学校 佐藤鈴音……………8  
福島市立北信中学校 阿部菜々子……………9  
福島市立松陵中学校 丹治瑞希……………10  
福島市立福島第三中学校 桑原空……………11  
福島市立岳陽中学校 平野叶大……………12

|                             |             |       |    |
|-----------------------------|-------------|-------|----|
| 音楽が与える希望                    | 福島市立蓬萊中学校   | 三浦愛理  | 13 |
| わたしが知らないところで                | 福島市立信夫中学校   | 小林愛佳  | 14 |
| みんな安心して住める町づくり              | 福島市立飯野中学校   | 府野雅仁  | 15 |
| 『きまり』を守って楽しいまちを             | 福島市立蓬萊中学校   | 江口結子  | 16 |
| 文化を尊ぶことの大切さ                 | 福島市立松陵中学校   | 紺野心清  | 17 |
| 子供からおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう | 福島市立飯野中学校   | 齋藤和人  | 18 |
| 未来の福島へ                      | 福島市立飯野中学校   | 齋藤柚香  | 19 |
| 私が考える福島市民憲章                 | 福島市立福島第一中学校 | 黒津ちはる | 20 |
| 大好きな福島と私                    | 福島市立岳陽中学校   | 齋藤梨里  | 21 |
| 一人一人の思いやりから始まる              | 福島市立信夫中学校   | 柳沼寧々  | 22 |
| 未来の福島市                      | 福島市立信夫中学校   | 皆川みのり | 23 |
| 福島市民憲章について                  | 福島市立福島第三中学校 | 佐藤史捺  | 24 |
| 福島の良い所                      | 福島市立福島第三中学校 | 丹野春花  | 25 |
| 『福島市民憲章』から思うこと              | 福島市立福島第三中学校 | 木谷麻菜美 | 26 |
| 福島市を住みよいまちに                 | 福島市立福島第三中学校 | 佐々木未来 | 27 |
| 安全で健康なまち                    | 福島市立福島第四中学校 | 小熊優歌  | 28 |
| 福島市について                     | 福島市立福島第四中学校 | 大島愛理  | 29 |
| きれいな福島市                     | 福島市立福島第四中学校 | 大島眞詞  | 30 |
| みんなの福島                      | 福島市立岳陽中学校   | 名倉牙香  | 31 |

|                  |  |
|------------------|--|
| 緑を大切に            |  |
| 福島市民憲章は守られているのか  |  |
| おだやかなまち作り        |  |
| 環 境 問 題          |  |
| 福島市民憲章について       |  |
| 福島市民憲章への誓約       |  |
| 僕から声をかけよう        |  |
| 福島の復興と花火大会で感じたこと |  |
| きまりを守りよりよい町にするには |  |
| 未 来              |  |
| 福島市をよりよいまちに      |  |
| 福島の取れたて野菜        |  |
| 『福島市民憲章』を見て      |  |
| ポイ捨てはいけない        |  |
| 高齢化社会について        |  |
| 未来に繋がるまちづくり      |  |
| 福島の美しさ           |  |
| 福島市民憲章について       |  |
| 福島市民憲章を考えて       |  |
| 福島をきれいに          |  |

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| 福島市立岳陽中学校 | 佐藤友理彩 | 32 |
| 福島市立岳陽中学校 | 小林武尊  | 33 |
| 福島市立岳陽中学校 | 古川万柚子 | 34 |
| 福島市立岳陽中学校 | 五十嵐美咲 | 35 |
| 福島市立岳陽中学校 | 阿部春奈  | 36 |
| 福島市立岳陽中学校 | 菅野夏子  | 37 |
| 福島市立蓬萊中学校 | 大槻巧   | 38 |
| 福島市立蓬萊中学校 | 渡邊希望  | 39 |
| 福島市立蓬萊中学校 | 高橋里奈  | 40 |
| 福島市立蓬萊中学校 | 平川慶   | 41 |
| 福島市立蓬萊中学校 | 山本菜々子 | 42 |
| 福島市立北信中学校 | 菊田千乃  | 43 |
| 福島市立北信中学校 | 湯田美悠  | 44 |
| 福島市立北信中学校 | 佐藤花   | 45 |
| 福島市立北信中学校 | 角田紗季  | 46 |
| 福島市立北信中学校 | 佐久間愛  | 47 |
| 福島市立北信中学校 | 森田千理  | 48 |
| 福島市立北信中学校 | 長野野々香 | 49 |
| 福島市立北信中学校 | 菅野愛実  | 50 |
| 福島市立松陵中学校 | 中村郁仁  | 51 |

# 福島市民憲章について

[illegible]

## 金賞

「一人一人ができること」

福島市立福島第二中学校

佐藤 穂佳

福島市民憲章の一つである、「子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくりましょう」というものに目がとまりました。それと同時に、とても素敵なことだと思いました。しかし、「素敵なこと」と思うのは、誰にでも簡単にできますが、実際にはなかなか行動に移すことができません。そこで、まず小さなことから始めようと思い、高齢化について調べてみることにしました。

すると私達の国では、総人口に占める六十五歳以上の人口割合（高齢化率）が二十三パーセントを超え、今後、戦後生まれの団塊の世代が高齢期を迎えるなど急速に高齢化が進展していることが分かりました。確かに高齢化というものが進んでいるという話は聞いたことがありました。でも、聞いたことがあるだけで、そのことについて

て考えたことはなく、これが私たちが大人になって実際に、抱えなくてはならない問題だと気がつきました。資料によると、もし、このまま高齢化が進んでしまうと長寿社会にふさわしい高齢者の福祉施策が課題となるそうです。それは、とても大きな問題のように思われますが、私たちのような、小さな存在でも、自分ができる身近なことはないか考えてみました。

私の家の近くに一人暮らしのおばあさんが住んでいます。私は小さいころからそのおばあさんのところをたびたび訪ね、色々なお話をしたり、何かとお手伝いなどをしたりします。おばあさんは「ほのかちゃんに来てくれると元気が出るよ。」と喜んでくれます。反対に私も、戦後物がなかった頃の話や、学校に行きたくても行けなかった話などを聞くことができ、いかに今の私たちが幸せであるかに気がつくことができました。

ほんのわずかな時間で、お互いに元気になれたり、感謝できたり、これこそが子どもからお年寄りまで安全で健康な町づくりの一步になるのではないのでしょうか。

また、私たちが小学校の時に、おじいさんやおばあさんが、通学路に立ち、見守って下さっていました。特に、帰りの遅くなった時などは、とても心強く嬉しかったです。

このように、違う年代の人通しに関わりを持つことで、地域で起こる犯罪や事故を防ぎ、安全な暮らしができることにつながると思います。

一人一人できることは、小さくても続けていくことで、広がっていく安心があるのだと思っています。

## 銀賞

「親切な心が町をつなぐ」

福島市立松陵中学校

尾形 堇

「いこ、どうぞ。」

私より一つか二つ年上の女の子たちが、電車の中で重い荷物を持ったお年寄りの夫婦に席をゆずってあげていた。その場面を見て、本当にこんなことがあるんだ、と思うとても感心した。私も気になつてはいたけれど、家族の前だから何となく引つ込んでしまった。そんな女の子たちは、本物の親切な人だと思う。私のように、ゆずってあげたくても、あと一歩踏み出せないという人が世の中にはたくさんいるはずだ。

「いこ、どうぞ。」

この一言で、これからの自分が変わるかもしれない。だから、私もこんな場面があったらあの女の子たちのように、勇気を出して一歩踏み出してみようと思った。

「親切で愛情あふれる町をつくりましょう。」

お年寄に席をゆずってあげた女の子たち。どんな思いでゆずってあげたのだろう。

「仕方なく」

「しょうがないから」

そうではない。

「重い荷物を持っていて大変そう。」

「荷物を持ちながら立っているのは楽ではないな。」

という心遣いからだ。ただやるだけでなく、そういった心遣いも大事だと思う。

そんな人がもつと増えれば町はよりよいものとなるだろう。

「誰かがやってくれるから自分はいいや。」

こんな風に人任せで、行動しない人がいてはよりよい町はつくれない。

親切というものが分からない人は、親切な人を見て学び、心遣いをはぐくめば良いと思う。私も一人の福島市民として、よりよい町をつくるために、親切さと心遣いを身に付けたいと改めて思った。

## 銀賞

「水もきれいなまち、福島」

福島市立北信中学校

永倉 健裕

僕たちが住む福島市には、荒川や阿武隈川、花見山、信夫山などたくさんの方が残されている。しかし、そんな川や山に出かけると必ずといって良いほどタバコやゴミが落ちていて、そんなとき、「せっかくきれいなところなのに残念だな」と思うことがある。

福島市民憲章の一つに「空も水もきれいなまちをつくりましょう」とある。しかし、僕の家そばを流れる川にはゴミがたくさん落ちていて、身近な川の現状に、僕にできることは何か、考えてみた。

一つ目は、当たり前のことだが、川にゴミを捨てないことだ。ゴミは景観を悪くするだけではない。人が捨てたゴミを魚がえさと間違えて食べてしまい、そのために死んでしまうこともある。まずは一人一人が川などにゴミを捨てないことが大切であ

る。

二つ目は、できるだけ汚れた水を出さないことである。大さじ一杯の油汚れを洗い流すには浴槽十六杯以上の水が必要だと聞いたことがある。しかし、一度油を拭き取ってから洗うことで使う水も洗剤もずっと減らせるのである。

三つ目は、シャワーの時に水を出しっぱなしにしないことである。僕は体を洗うときにお湯を出しっぱなしにしていた。今後はこまめにお湯を止めながら使っていくと思う。

汚れた水は下水として浄化されてから川に流される。だから汚れた水をそのまま流しても良いと考える人もいるかもしれない。しかし、汚れた水を大量に流すことは下水処理の能力低下をまねく危険がある。シャワーの時の節水などほんのわずかなことで環境への影響はほとんど無いという人もいるだろう。しかし、福島市民全員が節水を心がければ想像以上の水が節約できることだろう。そして節水は下水に流す汚れた水を減らすことにつながり、川の汚れを防ぐことにつながるはずである。また、川

は海へとつながっている。だから川をきれいにすることは、福島市だけではなく、もっと広い地域の川や海、そして自然全体をきれいにするにつながると思う。

一人一人が、これらのことを意識して生活していけば、自然が汚されることなく、いつまでもきれいな自然を保てるようになると思います。

僕たちにとって、福島市民憲章はとても大切な目標だ。みんなが少しずつ意識していけば、きっと住みよい福島市になると思う。放射線の影響でたくさんの方が離れてしまった福島市だが、福島市民憲章をみんなが守り、自然と笑顔があふれる福島市になり、いつか多くの人が戻ってくると思う。

## 銅賞

### 「故郷『福島』への思い」

福島市立北信中学校

栗田 悠真

昨年の東日本大震災以来、福島は様々な面で注目される地域となりました。しかし、その注目を良い意味でのものに変えられるように、福島は変わっていかなければならないと思いました。そのためにも、福島市をより住みよいまちにしていけることが大切だとぼくは思います。そこで、市民憲章の内容について、今自分が思うことや課題点をまとめてみたいと思います。

まず、「空も水もきれいなまちをつくりましょう」という項目についてですが、こういった環境問題で一番大切なのは、一人一人の心がけです。汚水を川に流さないために、食べ残しをしない、お皿に付いた汚れはふき取ってから洗うなど、自分に出来ることからやっていきたいです。

次に、「安全なまちづくり」という点について、以前から気になっていることがあ

ります。それは、前に母から聞いた、道路の段差に苦労したという話です。母は赤ちゃんだったぼく達をベビーカーに乗せて、よく散歩や買い物に出かけたのですが、とにかく歩道に段差が多いことに驚いたといえます。健康な人や、主に車を使っている人には、気づきにくいことかも知れませんが、でも、車いすやベビーカーを使う人やお年寄りにとってはどうでしょう。きつと、通れなかったり、転んだりといった事故につながる危険もあるのではないのでしょうか。みんなが安全で住みやすいまちにするためには、色々な人の目線から物事を見たり考えたりすることが大切だということに気づきました。そして、このように、人を思いやる気持ちや、「親切で愛情あふれるまちづくり」にもつながっていくのだと思います。

福島は、ぼくにとって大切な故郷です。何回か引越しも経験して、気づくことのできた良さもあります。駅前には高いビルや商業施設が建ち並び県庁所在地でありながら、豊かな自然に囲まれている福島。たくさんさんの果樹園があり、水々しい果物や野

菜が豊富な福島。みんなが親切で、転校してきたばかりのぼくにもやさしくしてくれた友達がいる福島。そんな福島をさらに住みよく、みんなが幸せになれるまちにしたいです。そのためにもまず、みんなに市民憲章について知ってもらうことが大事だと思います。

正直言うと、ぼくもこの作文を書くにあたって、初めて市民憲章についてくわしく知りました。そんな人が、きつと他にもたくさんいると思います。

これからは、この憲章がつけられた昭和四十八年の人々の思いを、ぼくらがしっかりと受けついで、「人も自然も豊かなまちづくり」を目指していきます。

## 銅賞

### 「I LOVE 福島」

福島市立信夫中学校

三 浦 奏 美

私は春、中学生になりました。中学生になり自転車通学です。小学生の時、徒歩で通っていた通学路も目線が高くなり、違った景色を見られます。

私が住む福島で好きなところは二つあります。

一つ目は、自然が美しいところです。

恩師が離任式で

「この辺の自然は、今まで見たことがないぐらいきれい。自然を見るといやな事も忘れられる。」

と言うような事を話していました。それから登下校時に、小川の音、吾妻山の種まきうさぎ、実のる果物に目をむけ始めました。すると、いつも通っていた道が変わって見えしました。

他にも祖父母と登った一切経の頂上では、別名「魔女のひとみ」と呼ばれる五色

沼を見ました。この五色沼のるり色の美しさは、今でもすぐく印象に残っています。

私は、この美しい福島 naturally 沢山の経験をさせて頂いています。だから、みどりを大切に、「空も水もきれいなみどりのまち」を守り、もつとすばらしい自然の姿を自分の目で見て、友達にも教えてあげたいです。

二つ目は、親切な方が沢山いるところです。

地域の人々と登下校中によく会ったりします。その時に、私があいさつをすると、「おつ中学生かい。毎日暑くて大変だね。気をつけてね。」

と、声をかけてくれます。そんなふうに言葉をかけてもらうと

（地域の人たちは、私たちを見守ってくれているんだな）

と思い、うれしいです。信夫地区の人たちのように、優しく親切な人は、他の地域にも沢山いるのではないのでしょうか。

最初から「親切」が難しい時には、あいさつ一つからでも始めてみるといいと思います。地域みんな、そして福島市のみんな

まで「明るくて、親切で愛情あふれるまち」にできればいいです。

福島市民憲章作文コンクールを通して、私は初めて福島市民憲章を知りました。だから、まだ知らない人も沢山いると思います。知らない人を少しでも減らし、福島を今よりももっと明るくて、快適に住みやすいまちにできるように、私たち子どもも市民の一人として協力できればと思います。

みんな、よりよい福島をつくっていきましょう！

## 銅賞

「希望に輝くまち」

福島市立飯野中学校

齋藤 千夏

「教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくりましょう」

福島市民憲章の中の一文です。教育とか、文化などと言うと堅苦しい感じがしますが、以前に母がしてくれた話が、私の頭の中によみがえってきました。それは、マリールイズさんの講演会で聞いてきた話でした。ルイズさんは、ルワンダで日本の青年海外協力隊から洋裁の技術を習ったのがきっかけで、日本へホームステイをすることになり、ホームステイ先で八十才のおばあさんが新聞を読んでいるのを見て驚きました。ルワンダでは、読み書きができるのは、限られた人だけだったからです。日本人の私達には、本を読んだり、新聞を読むことは、できてあたりまえのことですが、ルイズさんは、声を大きくして子供からお年寄りの方まで、字が読めて書くことができる

日本は、すばらしいと言っていました。ルイズさんは、このおばあさんと話がしたいために日本語を勉強して、簡単な読み書きができるようになりました。その後、ルワンダに帰国しましたが、戦争が始まり、音信不通になり、ホームステイ先の日本からの連絡も通じなくなり、命からがらたどりついた難民キャンプで日本へ連絡するために、

「いきています」

と書かれた紙を難民キャンプから日本のホームステイ先へファックスしたのを見た日本人医師に、日本語ができるのなら通訳をしてほしいと頼まれ、そこで通訳をしてお金をもらいます。そして再び日本へ来ることとなります。

字が読めて、書けるのは、あたりまえだと思っていました。私達は、世界でも有数のゆきとどいた教育を受けていることを実感しました。日本語が書いて読めるだけで、ルイズさんの世界が、三倍にも良い方向へと導かれていくのを考えると、私達も英語が読めて書ければ、同じようなことが私達の生活にもおこりうるのではないかと

思います。また、私達の町では春にはつるしびなを飾り、お客様をもてなし、秋祭りには、子供達とその親が、おみこしを製作します。それは、私達の先輩たちから受けついだ行事です。秋祭りは、これが登場しないと始まらないというくらい大切な行事となっています。

このように私達は、文字や知識を習得し、社会の一員として町を盛り上げ、活性化をはかり、未来の町のあり方や希望に輝くまちの姿がどうあるべきかを考え、実行していく使命と責任があるのだと思いました。勉強や伝統的な行事を大切に考え、私達の子供達にも、その子供達にも、それを伝えていきましょう。生まれ育った所が、愛する福島市が、希望に満ちた人達で輝いていることを願って。

## 佳作

「福島をきれいなまちに」

福島市立蓬萊中学校

永田 夏央

私は、福島を、「空も水もきれいな、美しいまち」にしたいです。

今、私たちが住んでいる福島のまちでは、川に、ゴミが捨ててあり、汚くなっています。他にも、食事をした後のお皿を洗った時に出る、油や、洗剤なども、川や水が汚れる原因となっています。ガソリンで走っている車から出るガスは、空気を汚す原因となっています。最近では、当たり前のようになつてきていますが、このようなことが原因で、空も水も、どんどん汚れていつているのだと思います。これでは、快適に住みよいまちにはなりません。

私は、一人一人が気をつけて、少しずつでも変えられればいいと思います。ボランティアの活動も、大切だと思います。一人でも多くの方が、ボランティアに参加して、自分たちで、福島のまちを、変えてい

ければいいです。今すぐには無理かもしれませんが、自動車も、ガソリンを使わない、電気で走る自動車にできればいいと思います。そうして、きれいなまちになつていければいいと思います。

住みよいまちにするためにも、ゴミを川に捨てることは、絶対にしないようにして、もし、川にゴミが落ちていたら、自分からすすんで、拾つて、捨てられるといいです。このようなことを、ポスターなどを使い、呼びかけることも大切だと思います。まちをきれいにするボランティアも大切だと思います。私は、以前、川の近くなどで、ゴミのポイ捨てをやめるように、呼びかけるポスターを見かけました。テレビでは、ボランティアで、川をきれいにしている活動の様子を見ました。みんな、自分たちのまちを、少しでもよくしようとしているんだな、と思いました。私は、自分ができることから、始めることが大切だと感じました。生活の中での問題は、工夫をすれば、よくなると思います。近い将来、ガソリンを使わない自動車にすることも、一つの解決策だと思います。私の住む地域でも、掃除を

する地域活動があるので、参加してみようと思います。皿を洗うときも、洗剤の量を減らすなど、工夫をしようと思います。小さなことから、実行していくことが大切だと思います。

私は、自分たちのまちは、自分たちで、快適で明るくて住みよいまちにできたらいいと思います。今すぐには無理かもしれませんが、小さなことから始めて、「空も川もきれいなみどの多いまち」にできたらいいと思います。

## 佳作

### 「私の大好きな福島市を 守るために」

福島市立蓬萊中学校

佐藤 鈴音

私は、福島市が大好きです。東京とかと比べたらものすごく田舎だし、ショッピングモールやレストランなども少なく、完全に技術などは負けてしまっていると思います。でも、豊かな自然やきれいな空、心の温かさなどは、負けていないと思います。むしろ、勝っていると思います。

実際、よく晴れた日に空を見てみたら、雲一つない空が広がっていてとてもきれいでした。また、学校帰りに空を見上げたら、夕日が丁度沈むところで、空がオレンジ色に染まり、美しかったです。そして、私が一番好きな空は星空です。夏休み、星を見るために夜山に行ったら、数えきれないほどたくさん星が光っていて、感動しました。その時私は、この空を将来自分が子どもを産んだら、その子どもに見せてあげた

いと思いました。そんな、人を感動させるいろいろな色の顔を持つ福島市の空が大好きです。だから、この空を守って未来に残していきたいと思います。

でも、こんな素晴らしい福島市にも問題点がいくつかあります。

たとえば、東日本大震災の影響で多くの木が切り倒され、たくさん緑が失われました。私は、実際に除染のために木が切り倒されているところを見たことがあります。その時は、大切なものを奪われていく感じがして悲しかったです。でも、除染作業は私たちが安全で健康に生きていくためには必要なものだったのだと思います。だから、私たちの未来を考えて除染作業をしてくれた人達には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に福島市にはあたたかい人がたくさんいます。

だからこそ、私達が福島市を守っていきたいです。空も水も自然も美しい福島市に私は生きていきたいです。

そのために、今きれいな空が、これからきれいな空であるために、二酸化炭素の排出をなるべく少なくし、透き通るきれいな

な水を守るため、川を汚さないように、家庭で使う洗剤の量を少なくしたり、川にゴミを捨てないようにしたりなど、今の私達も気を付けてやっている事は続けていった方がいいと思います。そして、一度切ってしまった木はもうもとは戻らないけど、私達の福島市がこれからきれいなみどりのまちに復活するために、みんなで協力して、木を植える活動をしていくといいと思います。

市民憲章には「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」と掲げられています。これからは私の大好きな福島市を私も守っていけるようになります。

## 佳作

### 「福島市民憲章について」

福島市立北信中学校

阿部 葉々子

私は、福島市民憲章というものをこの課題作文で初めて知りました。福島市民憲章は、昭和四十八年から福島を良くするために作られたものだそうです。実際、普段の生活の中で、自分は福島市民であるを意識したことはありませんでしたが、この市民憲章について考えることで、福島市のことをくわしく知るためのきっかけになればと思います。

市民憲章の中でも、私が強い印象を持ったものは三つあります。一つめは、「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」です。残念ながら、福島市は東日本大震災の福島第一原子力発電所の事故により、校庭や校舎の除染をしなければならぬような被害を受けました。今でも市のあちこちに、空間放射線量を標示する機械が設置されています。学校内は除染してあるために放射

線量は低いですが、除染されていない通学路や雨のたまりやすい場所の放射線量はなかなか低くなりません。そういう所の除染が進み、空間放射線量を標示する機械がいらなくなるくらいにしないと、この憲章は達成できないと思います。

二つめは、「子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。私の住んでいる北信地区は、おろしうり市場や商業施設があり、朝夕は交通じゅうたいが発生し、高校生や中学生の自転車の通行もとても多いです。その中を小さな子供やお年寄りが歩いているので、危険だなと感じることも少なくありません。法律で自転車は歩道を走ってはいけないことになったようですが、自転車用のラインは完全に整備されているとはいえないようです。自転車と歩行者の事故が増えていると聞いたので、どちらも安心して通行できる道づくりを期待しています。

三つめは、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」です。きまりを守るということは、自分だけが気をつけるのではなく、守っていない

人に対する注意も大切だと思います。よく自転車の二列走行を見かけますが、結局は注意できずにいます。楽しく働けるまち、働くことは少なくとも大変な事だと思います。それがしゅみならいいですが、なかなか楽しく働くということは難しいことだと思います。ですが、介護の仕事など人に「ありがとう」と言われる仕事は、大変だけれど言われた人はうれしいと思います。

福島市は今、この市民憲章を守れているとは言えませんが、少しずつでもよくなっていけたらと思います。私も自分で出来るような活動であれば、進んで自らやっていきたいと思っています。

## 佳作

「『教育』『文化』を大切に…。」

福島市立松陵中学校

丹 治 瑞 希

私が「福島市民憲章」を読んで、一番印象に残ったことは、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という、二つ目に出てくる文章です。

この文章を読んで頭に浮かんだことは、二つあります。

一つ目の「教育」という言葉から、小学五、六年生の頃に学習センターで絵の描き方や、書きぞめなどを教えてもらった事を思い出しました。おじいさん、おばあさんが何人か来て、やさしく、ていねいに教えてもらいました。友達と行って、みんなで「楽しかったね。」

「また来年もあつたら、来ようね。」などと話していました。

絵を描いたり、映画（アニメ）を見たり、私はとっても楽しかったです。この、交流などをこれからも続けていって、年下の子

達にも触れ合いを大事にしてほしいと思います。

私は次に「文化」という言葉から、毎年十月に行われる「松川町提灯まつり」を思い出しました。どこの町内会でも、一、二ヶ月前からお祭りに向けて練習をしています。各町内を歩いたり山車どうしが集まって「おはやしひろう」をしたりします。どのおはやしの曲も、町内ごとに少し違く聞いていても、笛を吹いたり、たいこをたたいたりしていてもとても楽しくなってきました。

私は父に、

「いつ頃からお祭りやっているの。」

と聞いた事があります。お祭りは、父が子供の頃からやっていたそうで、「伝統のある文化なんだな」と実感する事が出来ました。

私は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という言葉を忘れないようにして、行事などに積極的に参加したいと思います。「教育」「文化」の豊かな福島が続く事をいつまでも願っています。

## 佳作

### 「大好きな福島の未来」

福島市立福島第三中学校

桑 原 空

私は、福島が大好きです。それは、自然がきれいなことと、福島みんながとても優しい、あたたかい所だからです。でも、こんなにいい所なのに、私は「福島市民憲章」を知りませんでした。初めて見た時、福島市はみんなが幸せになれるまちを目指しているんだなあとうれしかったです。私のほかにも「福島市民憲章」を知らない人はたくさんいます。それはとてももったいないことだと思います。

「福島市民憲章」を福島市のみんなが知っていれば、全員が福島市の幸せのために一生懸命努力すると思います。だから、まずはこの憲章をたくさんの人に知ってもらいたいと思います。私もできることはしていきたいです。

私が「福島市民憲章」の中で一番心に残ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつ

くりましょう。」というところです。なぜかというと、このようなまちをつくれれば、たくさんの人が願う「幸せなまち」をつくれると思うからです。また、親切で愛情あふれるまちはいろいろな人の役に立つと思います。福島市のみんなが親切だったら、みんなが安心して、楽しく暮らせます。それはとても幸せなことです。

福島は今、震災で大変な状況です。だれもが辛く、苦しい思いをしていると思います。復興も大変かもしれません。そんな時、「福島市民憲章」は、福島市民に希望を与えてくれます。この憲章で、福島の未来の幸せのためにがんばろう、苦難を乗り越えようという気持ちになります。元氣が出ます。未来のためにがんばれる「福島市民憲章」の力はとてもすごいなあと感じました。私は震災の被害は少ないです。だから、憲章にある五つの明るく楽しく住めるまちづくりに協力したいです。そして、「幸せなまち」をつくって被害が大きかった人の役に立ちたいと思いました。

私は、「福島市民憲章」を多くの人に伝え、未来に向けて明るいまちをつくることが大

事だと思っています。しかし、一人でまちをつくることはできません。福島が大好きな人全員が協力してがんばれば、きっと福島はみんなが幸せで生きていける明るいまちをつくれると思います。

## 佳作

### 「『福島市民憲章』を知って」

福島市立岳陽中学校

平野 叶大

僕は、「福島市民憲章」のことをあまり知りませんでした。そもそも「憲章」についてもよく分かりませんでした。

そこで、辞書で「憲章」について調べてみました。調べて分かった「憲章」の意味は、「重要なおきて。原則的なおきて。」でした。

改めて「憲章」の意味を理解し、「福島市民憲章」を読んで特に印象に残ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」というものでした。

そこで、福島市は空も水もきれいなまちなのかを考えてみました。僕の身近にある、きれいな場所は荒川です。登校中、八木田橋を通る時に、雨の日以外はいつも水がすき通っていてきれいです。荒川のほかに、水のきれいな場所はいくつか思いつきますが、空のきれいな場所はなかなか思いつき

ませんでした。

では、空がきれいとはどのような意味なのでしょう。考えると空がきれいというのは空気がきれいという意味だということが分かりました。僕はすぐに原発事故のことを思い出していました。現在、福島市は原発事故の放射能の影響が少し心配ですが、空気のきれいな場所はまだまだあると思います。例えば、吾妻山の方はとても空気がきれいです。福島駅の近くにいる時よりも呼吸すると、とても気持ちがいいからです。

考えると、水や空気がきれいな場所は、福島市内にたくさんありますが、果たして福島市はみどりが多いでしょうか。

僕の身近な場所で緑のある場所は吾妻山、信夫山、河原、田、畑……などいろいろあります。植物は、人間が生きるためにも必要です。

福島市の水や空気をもっともとときれいに、みどりををもっともっと多くする方法はないのでしょうか。自分にも、なにかできることはないか考えてみました。

まずは、道路や公園に落ちているゴミ拾

いです。時々、道路を歩いたり、公園に行ったりすると、空き缶やペットボトルなどが捨てられていることがあります。それらのゴミは、しつかり外のゴミ箱や家に持ち帰るなど、注意を徹底したいです。

それから、ゴミの分別です。ティッシュのかすなどの紙類は燃えるゴミ、プラスチック類は燃えないゴミ、ペットボトルや空き缶や空きビンもそれぞれ分別してゴミを出すようにしたいです。

このような取り組みが、「福島市民憲章」の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」につながって、もっと住みよい福島市の町づくりにつながればいいと思います。

## 佳作

### 「音楽が与える希望」

福島市立蓬萊中学校

三 浦 愛 理

音楽。私が一番好きなものだ。

音楽は良い。疲れた時の癒し、落ちこんだ時の励まし、またある時は応援歌として私たちに勇気や希望、感動を与えてくれる。私だってそうだ。くじけそうな時、辛い時：何度音楽に助けられたことか。私にとって音楽は「命と同じくらい大切なもの」と言っても、過言ではない。

そんな素晴らしい音楽を生み出した人物がこの福島市にもいる。ご存知だろうか。そう古関裕而さんだ。

あの「栄冠は君にかがやく」も古関裕而さんの作曲によるものだ。この曲は、人生をひたむきに生きる青年や子供達に対し、勇気や励ましを与えてくれるようなメロディーになっている。この曲が昭和二十四年から長い年月を経た今も歌い継がれている理由の一つだと思う。

そういえば私の通っている、ここ蓬萊中学校の校歌も古関裕而さんが作曲したものだ。調べてみると福島市にある学校の多くの校歌が古関裕而さんの作曲によるものだった。全国的に有名な作曲家が自分の通っている学校の校歌を手がけたということはすごくうれしく思うし、その手がけた校歌の数を見て古関裕而さんは福島が大好きだったということがよく分かった。福島を何とも思っていないなかったらあんなにたくさん曲は作ってくれないだろう。

しかし今、その福島市を代表する有名な作曲家、古関裕而さんのことを知らない人が増えている。福島駅前東口にモニュメントがかざってあるが、それでも誰か分からない人が多いようだ。

福島市は、これほど偉大な作曲家が生まれた土地なのだから、きっと昔から音楽という文化が生きづいていた所なのだと思う。この昔から生きづいていた素晴らしい文化をこれからも継承していきたい。そのために、私はこの福島市を一人一人が音楽を始めとした文化や教育にもっと身近に親しめるようにするべきだと思う。

例えば、街に音を溢れさせるのはどうだろうか。街にスピーカーを設置し、そこから朝、昼、晩で違った曲をBGM感覚で、流すという考えだ。うるさくならない程度に流すと良いと思う。

また、母親が、お腹の中に居る時から子供に音楽を聞かせるのも良いと思う。物心がついた時から音楽に興味を持つ子供が増えると思う。

そうすれば、きっと第二の古関裕而が生まれるかもしれないし、福島市は街中にきれいな音が満ち溢れる素敵な「市」になるかもしれない。市民憲章には「教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう」と掲げられている。明るい未来を夢見て少しずつ希望がかなえられたらいいと私は思っている。

## 佳作

「わたしは知らないところで」

福島市立信夫中学校

小林 愛佳

### 「福島市民憲章」

これは、わたしがこの作文を書かなければ目にするものがなかったと思う福島市の目標とするものだ。たとえ町に掲示してあったとしても見ようとはしないくらい関心が低かったものだ。そしてこややってこの目標を読んでもみると、一つ考えたことがある。

わたしの家に近いところにある、あまり広いとはいえない公園のことだ。この公園は、市民憲章の一つの「空も水もきれいなまち」をつくろうとするにあたって、そのことに反するものであった。まず地面には、小学生達が遊んだらしい、おもちゃのピストルの玉が散らばっており、隅の方には大きなハチの巣がある。さらに、今年の夏休みには、花火をした後のゴミが捨てられていた。その時はさすがにわたしも

「今度ゴミ拾いにもこようかな。」

と思いましたが、家に戻るとすぐに忘れてしまっていた。今思えば、わたしがあのとき行動していれば、「空も水もきれいなまち」に近づいたのかもしれない。

でも、わたしはなぜ今までゴミのことを思いださなかったのだろう。あのゴミを見つけてから数日後には、飼い犬の散歩でよく公園を歩いたはずなのに……。でも、もしかすると、あのゴミはだれかが拾ってくれたのではないだろうか？わたしがゴミのことを忘れたのはゴミを目にしなくなったからではないだろうか？きっとそうにちがいない。あのゴミは、わたしが知らないところで、わたしの知らないだれかが、あの公園に来る人達のために拾ってくれたのだ。すごいと思っだし、感心した。だが本来は、普通のことなのだ。

福島市民憲章には、五つに共通点がある。それは、最後がどれも「つくりましょう」で終わっていることだ。「空も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化に尊び希望に輝くまち」「親切で愛情あふれるまち」と、内容は様々だったが、どれもこの町に住む、

わたしをふくむ人々がつくっていくべきものだったのだ。存在がわたしの中でうすかった市民憲章は、これから町を発展させるべき人々へのメッセージだった。わたしは、まだ中学一年生で、町を変えていくことはできない。しかし、これから大人になるにつれ、できることが増えていくだろう。それができなくても、普段気にしないようなところで働く人になって、「福島市民憲章」にあることを、いつか少しずつでも実現させていきたい。

## 佳作

「みんな安心して住める町づくり」

福島市立飯野中学校

府野 雅仁

子どもからおとしよりまでが安心してく  
らせる町づくりと聞いて、いろいろ考えて  
みました。

僕は、小学校低学年のころ老人センタ  
ーで職場体験をしました。老人センタ  
ーにいたおじいちゃん、おばあちゃんは、あ  
まり元気ではなかったけれど、大きな声で  
話しかけたり、ゆっくりボールを投げたり  
して楽しく遊んだりしました。

このようなこともあってお年寄りは大切  
にしなければならぬとよく思います。僕  
にも同じ歳くらいのおじいちゃんがいま  
す。僕は中学校に入り、部活で帰宅もおそ  
くなり、おじいちゃんと会う機会が減って  
しまいました。そして三月十一日の震災の  
とき、おじいちゃんとは連絡がとれなくな  
り、とても心配したことを覚えています。  
それもおじいちゃんは大体外出をしている

ので連絡がとれないととても心配してしま  
います。携帯を持っていてなかったなど、  
そんな理由でした。最近ではおじいちゃん  
と一緒に暮らす計画を立てています。僕も  
おじいちゃんが心配なので一緒にいると安  
心するので賛成しました。

このように老人ホームのおじいちゃん、  
おばあちゃん、僕のおじいちゃんなどのお  
年寄りが住みやすい町になればいいなあ  
と僕は思いました。

僕の住んでいる飯野町には、飯館から避  
難してきた飯館中の人の中学校ができた。  
僕も登校時など、スクールバスをよく  
見かけます。飯館中の先生や生徒とすれち  
がったことがあるのですが声をかけること  
ができませんでした。飯館中の人は自分の  
中学校をはなれるというつらい思いをして  
いるので、自分から大きな声でいさつをし  
て、少しでも元気になって、そして安心し  
て生活してもらえればうれしいです。

次に僕が大切だと思っていることは、地  
域との関わりだと思います。さっきも言っ  
たとおり、まずは、あいさつが大事だと思  
います。学校でも、あいさつは大切だとよ

く言われます。僕は学校では、あいさつを  
きちんとしますが、登校、下校の時は、あ  
まりあいさつをしていないような気がしま  
す。今は放射線など大変ですが、だからこ  
そきちんとあいさつをして地域との交流を  
深めていきたいと思っています。

今は震災などもあり放射線など大変なこ  
とが多いですが、今、挙げた、協力、あい  
さつ、地域との交流を忘れずに行い、みん  
なが住みやすく安心できる町にしていきた  
いです。

## 佳作

『きまり』を守って楽しいまちを」

福島市立蓬萊中学校

江口 結子

「きちんときまりを守りましょう。」

みなさんもこんな言葉を聞いたことが、言われたことがあるでしょう。学校の課外活動、友達が悪いことをしたときなどに、よく耳にする言葉です。「別に守らなくても、迷わくにならないから、いいじゃん」と思う人もいるでしょうが、私は違うと思います。一人がきまりを守っていないことで、みんなに迷わくがかかっていると思います。

私は先月、図書館に行きました。そこは、いろんな本が置いてあって、利用者が多い図書館です。でも、一冊一冊本を見ていると、ぼろぼろで、ページが切り取られているもの、勉強かなにかで使ったのか、蛍光ペンがひかれているものなどが、たくさんありました。私が借りようとした本も、表紙にジュースをこぼしたあとがあつて、い

やな気持ちになりました。

それだけではありません。

最近、たばこを吸っている人をよく見かけ、家族とドライブに行った時も、車で私達の前を走っていた人が、たばこを吸いながら運転していました。そのたばこを吸っていた人は、ここが道路というにもかかわらず、吸っていたたばこの吸いがらを「ポイッ」と路上に捨て、何事もなかったかのように走り続けました。きつと、それを見た人は、いやな気持ちになったでしょう。このように、きまりを守らないということは、他の人にも大きな迷わくをかけることなのです。

しかし、現在、そのような問題は悪化してきて、「建物のかべにスプレーで落書き」「ごみのポイ捨て」などの問題が多く見られます。自分の会社の建物に落書きをされた人は、どう思っているのでしょうか。「かべに絵を書いてください」なんてたのんでないのに、身勝手な人々のせいで落書きされてしまい、とても悲しいし、悔しいことでしょう。

「みんながきまりを守り、公共のものを

大切にし、自分のことだけでなく、他の人のことも考えられるまち」

それは、私の理想の福島のみちです。でも、きまりを守らない人々がたくさんいるので、「私の理想の福島」は、まだまだ出来上がりそうにありません。「私の理想の福島」を実現するためには、どうしたらよいでしょうか。

ポスターを書いて、目立つ場所に貼る、このような現状を、友達、家族、親せきの人に言う…、小さなことでも、私達に出来ることは、たくさんあります。「公共のものを大切に！本が傷ついて泣いています！」なんて見出しをつければ、人々の目をひき、「公共のものを大切にしよう！」と、意識してもらえるかもしれません。

「小さなことを、少しずつ。」

それを大切にして、一人一人がきまりを守る、楽しい福島のみちをつくっていきたいと思います。

## 佳作

### 「文化を尊ぶことの大切さ」

福島市立松陵中学校

紺野 心清

私が「福島市民憲章」を読んで、一番印象に残ったのは、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」という二番目に出てくる文章です。

私は、生まれて初めておはやしに参加しました。私は中学生だったので、笛の担当になりました。でも私は笛を吹いたことがないので、個別で教えてもらいました。

息の吹きこめ方、角度、指のことなど、一つ一つおそわりました。

私の前には、今とても上手に吹けている友達が、おそわったんだと思います。そして、私の後にも笛の担当になった子達がこれからもずっとおそわると思います。

本番まであと一週間を切った時、大人の人達が吹いているのを聞きました。高い音がきれいにでていて、私は、

「長い歴史の文化にふれるってすごい

な。」

と思いました。ただでさえ高い音を吹けるか吹けないかの私だから、心から本当にすごいなと思いました。

本番の日まで私はなるべくあいている時間を見つけて練習をしていました。

「もっとスムーズに高い音が出せるように。」

私は、まだまだ低い音をもっと高く出せるようにずっと吹いていました。

当日、金谷川小学校で盆おどりが始まりました。始まる直前、中学生は終わるまで吹き続けるということを知り、私は不安になりました。一応、高い音は吹けるようになれたけど、吹けなくなったらどうしよう、リズムが分からなくなったらどうしようなどと、マイナス思考で考えていてしまいました。

でも私は、自分を信じようと思いました。

本番前日まで練習をがんばったんだから、きっとできる。

本番が終わると、もう達成感でいっぱいでもう本番前の考えは、どっかへ行っちゃいました。もちろん、吹けない時もあった

し、リズムが分からなくなりました。でも、その反省点よりも、

「文化を尊び、ふれることっていいな。」と思いました。

これからも、このような文化を尊び、文化にふれることで、伝統的な文化がずっと、いつまでも続けばいいと思いました。

## 佳作

「子供からおとしよりまで

安全で健康なまちを

つくりましょう」

福島市立飯野中学校

齋藤 和人

子供からお年よりまで安心して、そして健康でいられるまちをつくるといわれて、何ができるか考えてみました。

まず、健康なまちです。僕は休日に散歩をします。散歩をしていると、いつも近所のおばあちゃんに話しかけられます。僕は元気よくおばあちゃんとお話します。「中学生かい。」と聞かれたり、「野球部かい、がんばってな。」などといわれます。ぼくはそういわれるともっと元気が出てきます。それに、近所のおじいちゃんとは、少し長話をするときどきあります。おじいちゃん、おばあちゃんは、みんな元気よく犬の散歩をしていたり、僕と同じように散歩している人もいました。飯野町のおじいちゃん、おばあちゃんは、とても元

気で健康的だと思いました。それに、飯野町には、子供もたくさんいます。みんないつも元気で大きな声であいさつしてくれまうす。子供も休日は学校などで、野球や、サッカーをして遊んでいるのをみかけます。やっぱり子供からお年よりまで健康だと思いました。毎日、毎日学校に行くときもおばあちゃんやおじいちゃんに会います。みんな、ゴミ出しなどをして、とても重い荷物を運んでいます。とても力が強く健康的です。小学生の時は、運動会でも地域対抗の競技などにもとても参加していました。中でも盛り上がるのは地区対抗リレーです。毎年おじいちゃんが数名参加します。とても速い人がいて、成人男性よりも速い人がいます。今では、たまにしか参加していませんが、とても速く運動会を盛り上げてくれました。健康なまちづくりをするには、早寝、早起きと、毎日三食をしっかりと食することだと、おばあちゃんがいつていました。そうすれば毎日健康にすごせることが分かったので毎日規則正しい生活をしたいです。

次に安全なまちづくりです。飯野町はと

ても交通事故なども少なく、食糧問題などなくとても安全なまちです。ただ一度だけ車の衝突事故がありました。そこは交差点で信号がない道路です。一台の車が止まれの表示を無視して反対側からの車に激突した事故です。幸い負傷者はでませんでした。危険な事故でした。ぼくはその事故の原因を考えました。その原因は、信号機がないことだと思いました。お父さんが信号機が無いと不便だ。といっていたのでやっぱり信号機があった方がいいと思います。ほかにも、放射線の問題などがありますが、子どもから大人まで安全で健康なまちづくりをこれからも続けたいです。

## 佳作

### 「未来の福島へ」

福島市立飯野中学校

齋藤 柚香

私は、福島市民として幸せに送れる日々を作りたいと思っています。それは、子どもからお年よりまで、健康で安全な町作りから、始めた方がいいと思いました。まず、市や町との交流を深め笑顔いっぱい福島市民にしたいと思っています。多くの人々と交流を持つ事によって、福島県の人々の団結力と絆を深めていく事が出来るのではないかと思います。

最近のニュースや新聞を見ると、普段に考えられない事が、ニュースで見うけられます。幼い子をぎせいにする事故やむやみに人を傷つけたり、いじめをする人が増加しています。生きたくても生きられない人、必死にがんばって生きている人がいるのに、ささいな事故で、たった一つの命を失っています。とても悲しい事だと思っています。母がいつも言っています。「今の時代、

若い人達は、何でも手に入る時代がまんする事を知らないし、親は、がまんさせないからなんだよ。」と言います。私も、その通りだと思いました。ほしい物は、すぐ買ってもらえるし、「私だけがもっていないだよ。」と言えば、仕方なく親はしぶしぶ買ってくれる様な事が普通になっていきます。一人一人がもつと、自分に責任を持ち、きまりを守らなければなりません。私達の学校生活の心得の中の志保井が丘に「当り前のことは、当り前に。」私は思いました。この心得は本当に、これからの私達に大切な事を言っているのだと思いました。

小さな事から少しずつ自分が、変わっていかねばなりません。今こうして生活できるのも、おじいちゃん、おばあちゃん達のお年寄りがいたからこそ、私達がいるのです。昔ががんばってくれた、おじいちゃん、おばあちゃん達に感謝の気持ちを忘れずに、ゆずり合い、助け合って生活していく事が大切だと思います。昔からの、言い伝えや習慣、行事など私達がおそわって、また、新しい私達の子供の時代へ、伝えて行かなければなりません。

私達は、これからの日本を担っていく人です。地球環境の事なども、ふくめて考えていかなければなりません。なので、国民全員が快適で、明るく、住みよいまちづくりにするために、国民全員との理解とともに、いちがんとって、美しい福島市、心が優しい福島市にしてほしいです。

これから、私達の若い力で、福島を元のすばらしい福島にできる様、「だれかがやるだろう。」ではなく、「私が……。」「僕がやってやる……。」と、思う気持ちで、子供から大人お年寄りまで、あたたかい心で一歩前進しましょう。みんなの力で……。

## 佳作

### 「私が考える福島市民憲章」

福島市立福島第一中学校

黒津 ちはる

私は、正直をいうと「福島市民憲章」というものを知りませんでした。今回、作文を書くために初めて内容を読みましたが、私たちが暮らす福島をよりよい街にするとても良い憲章だと思いました。

一、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」

これは環境についてのことです。空が汚れて水もにがり、岩がむき出しの山の中で生活していれば、住んでいる人たちの心が汚れ、黒くにごってしまいます。「うつくしま、ふくしま」と言われているように、すき通ったきれいな空や水、緑いっぱい山に囲まれるとみんなの心もすき通ったきれいな心になると思います。

一、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」

教育がきちんと身についている人間は、

まちがったことはせず、希望に満ちた人になると思います。そんな人が福島にたくさんいるということは、とても誇りであり、自慢に思います。そして歴史ある福島の文化を理解して大切にすることは、次の世代の人々へつながるはならない私たちの大切な役割にもなります。

一、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」

これは、ひとりひとりがお互いに思いやりを持ちながら生活をしていくことだと私は考えます。人を思いやりながら行動する気持ち、これは市民としてだけでなく人間としてとても大切なことだと思います。みんなが一日に一つ親切なことをすれば、福島市の市民二十万人で一日に二十万個の親切が生まれます。これってとてもステキなことだと思いますか。

一、「きまりを守り、力を合わせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」

社会にはルールがあります。ルールは、よく考えると簡単なことばかりです。多勢の人が争うことのないように、みんなを守るためにあるのがルールだと思います。今、

福島は復興のために市民全員が力を合わせています。争うことなく、みんながお互いのことを考え合いながら協力して、一日も早く以前のような福島市にもどりたいです。

一、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」

これは、前の四つの憲章のまとめであり、全ての市民が前の四つの項目を実行すれば、きっと福島市民全員が幸せで安心できる毎日をすごせるにちがいありません。

今、福島市は苦しい状態にあります。でも、みんな「負けるもんか!」と思いながら暮らしています。この元気があれば、福島市はきっと早く元通りになると信じています。

## 佳作

### 「大好きな福島と私」

福島市立岳陽中学校

齋藤 梨里

やさしい人々、自然豊かな土地。私はそんな福島が大好きです。しかし、そんな福島での生活をかえてしまう出来事が起きてしまいました。

昨年三月十一日に起きた東日本大震災。震災の影響で福島第一原子力発電所が爆発してしまいました。

そのため、外に出るときもマスクをしたり、帽子をかぶったりしなくてはいけませんでした。それに、外での運動ができず、屋外のプールにも入れなくなってしまうしました。

友達の中には、放射能からにげるように転校してしまう人が何人かいました。

また、これまで私は、おばあちゃんの家で「流しそうめん」や「すいかわり」をするのが楽しかったです。しかし、山の竹が使えない、外で食事ができないために、昨年

から行わないことになりました。

私は、このような出来事があったから自分の周りの環境が、明るく楽しいものから、暗くさびしいものになってしまうのではと思い、心がつらく、悲しくなっていました。

このとき私は、「なんで福島がこうなるの」と思い福島がきれいになってしまっていました。

しかし、私はある日、このような思いをしている人は私だけではないということが分かりました。しかし、私と同じ思いの人は、私とはちがいました。理由は前を向こうとしていたからです。私も「いつまでも下ばかりを向いてはだめだ。震災前とはちがう生活でも、前を向いていれば楽しいことも増え、幸せになれるはず。」と気持ちを改めることができました。

このような気持ちで生活していると、今まであたり前だったことも、とつても楽しく幸せな事だったと思えるようになりました。それと同時に、福島の良いところ「やさしい人々」を思い出すことができました。私にやさしく声をかけてくれる近所の

人、私といっしょに笑って泣いて感動してくれる友達、いつもやさしく時には厳しく支えてくれる家族。私の周り、福島にはこのような人がいる、それだけでとても幸せだと思い、このような人と生活できて楽しいと感じました。

私は友達や家族が大好きです。震災後、周りにはたくさんの方がいたのに、私はなぜ下を向いていたのか不思議に思います。震災後に自分の心が暗くても、友達や家族といっしょの時は、私は笑顔でした。

震災から一年半が経った今、私は、震災が過去になるにつれ忘れてしまいそうだったこと「震災後の私の気持ち」をこの夏に、この作文を書いて思い出すことができました。この作文に書いた自分の気持ちをこれから先、大切にして、忘れないで生活をしていきたい、そう思いました。そして、私の大好きな友達、家族、福島を一生大切にしたいです。

## 佳作

「一人一人の思いやりから始まる」

福島市立信夫中学校

柳 沼 寧 々

私は、福島市民憲章は、すばらしいものだと思いました。市民憲章の内容であるみどりのまちもかがやくまちも、愛情あふれるまちも楽しく働けるまち、安全で健康なまちも実現したら、とてもよいことだと思います。どれも実現は絶対に可能です。でも、市民憲章を実現するのは、少し難しいと思いました。なぜなら私は、市民憲章を実現するのに必要な思いやりなどの力が足りていないと考えたからです。今は、思いやりをしっかりとっている人が少ないと私は思います。実際、私も思いやりの心が少ないのではと思っています。私以外でも、このような人は、多いのではないでしょう。それではいけません。まずは、思いやる気持ちをもつことから始めるべきだと思います。

親切で愛情あふれるまちをつくるために

は、思いやり、それから人々のふれあいが必要で、思いやり、それから人々のふれあいが大切です。まずは、自分から積極的に、人々とのふれあいを増やしてみたり、ほんの小さなことでも行動に移してみたり、みんな協力しているうちに、きつと親切心や人々の愛情が生まれ、広がっていくと思います。今まで以上にきつと、親切で愛情あふれるまちをみなさんでつくりましょう。

また、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくることも思いやりから始まると思います。そんなこと簡単、と思う人もいるかもしれませんが、しかし、どうでしょう。実際は、電車の席をゆずったり、お年寄りの方のお荷物をもったり、危ない子供に声をかけたりすることもできないことが事実です。勇気を出して、行動すれば、たちまち周りの人々にも広まるはず。市民憲章を広めるためにも、みなさんの思いやりが「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をつくりだせるのだと思います。

このとおり、よりよいまちづくりには、市民憲章は大切です。みなさんで市民憲章を広めましょう。そのためには、やはり思

いやりは必要です。それから、協力や勇気、努力などたくさんの方が必要です。だからこそ、やるのです。きつと、この市民憲章が実現したときには、とても活気があり、みどりもかがやきも、愛情も安全も楽しさも今よりもきつとすばらしいものになっていることでしょう。

## 佳作

### 「未来の福島市」

福島市立信夫中学校

皆川 みのり

福島市民憲章。これが一体何なのか、わたしは中学生になるまで全く知りませんでした。市民憲章という言葉なら何となく聞き覚えはありますが、実はつい最近になるまで、福島市にもそんなものがあつたなんて分かってなかったのです。

初めてその言葉を耳にした時、わたしは、「何だか難しそうだな。どのくらい長い文章なんだろう。」

と、憲章というのだからきっと難しい文章なんだろうと思っていました。その時に社会で習っていた、聖徳太子の十七条の憲法が、けっこう難しめの意味の深い文だったのです。

「同じ『憲』という文字も付いているし、やっぱりこんな感じなのかも。」

と思っていました。しかし、それはただの勘違いでした。福島市民憲章は、だれにで

も分かりやすい言葉で、伝えたいことを凝縮した、福島市に住む人達に向けた五つのメッセージだったのです。

この福島市民憲章を見た時、わたしは何度も読み返しました。そして、

「なんだ。わたし達、もうけっこう出来てるじゃん。」

と感じました。少し甘く見過ぎじゃないのか？と思う人もいると思いますが、それでもわたしは、もう六割くらいは出来ているんじゃないかと思いました。

なぜわたしはそう思うことができたのでしょうか。例えば、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という場合、二つの理由があります。

まず一つ目は、わたしの周りの人が親切な人ばかりだということです。これは、ずっと前から思っていたことなのですが、本当に福島には優しい人がいっぱいいます。ここ最近そう感じたのが、とある県に旅行に行った時のことです。ふつう、電車は降りる人を優先して、それから自分が乗りますが、その県の人は、満員電車にも関わらず、扉が開くとすぐに割り込んで乗っ

ていました。その光景を見たわたしは、やっぱり福島の人には優しいんだなあと改めて感じました。

二つ目は、その人達の影響を受けてわたしも人に親切にしようとかがんばるようになったからです。今までも、自分がされて嫌なことはしないようにしてきましたが、中学生になってからは、もっと親切にするように心がけてきました。

そんなことがあつたから、この福島市民憲章がみんな出来るんじゃないかなと思いました。でも、さすがに全部はできていないと思うので、がんばっていききたいです。わたしは、福島市民憲章について最初は知りませんでした。これからの快適で明るく住みよいまちづくりのために、市民憲章について考えてみようと思いました。

## 「福島市民憲章について」

福島市立福島第三中学校

佐藤 史 捺

私は、福島市民憲章の中にある、「空も水もきれいなまちをつくりましょう」について、とても難しいことだと思います。その理由は水に砂を入れると茶色くにごるように、ちょっとしたことできたなくなってしまうのです。なので私は、難しいと考えました。

ですが、洗剤を多く使わなかったり、油をそのまま捨てずにもう一度使ったりなどのことをすれば、水はあまりよごれずにくむと思います。そしてこれを福島市民一人一人がすれば、「空も水もきれいなまち」として有名になると思います。

次に、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのはとてもいい考えだと思います。なぜなら、私は、人に親切にされるととても暖かい気持ちになります。それは、私だけでなく他の人達もいっしょ

だと思っています。親切の仕方はたくさんあります。バスや電車で、お年寄りなどに席をゆずったり、重そうな荷物を持ってあげたりすることも親切です。

私は親切とは、人の心が暖まり、うれしい気持ちになれば全て「親切」だと思います。

なので、すれちがった人に「こんにちは」とあいさつをしたり、友達が悲しんでいるときにそばにいてあげることも親切だと思います。

こんなささいなことでも人の心は暖かく幸せな気持ちになります。親切とは、とてもすばらしいものなのではないでしょうか。ちょっとした親切、小さい小さい親切。どんなに小さい親切でも人は暖かい気持ちになります。

私は「親切」という言葉を常に胸に置き、人のためにすごしていきたいと思っています。そして、福島市だけでなく、世界中の全てが親切で愛情のあふれるまちになったらいいなと思います。

## 「福島の良い所」

福島市立福島第三中学校

丹野 春花

私は、福島市で生まれ、福島市で育ちました。

けれど私は少し前まで、福島市があまり好きではありませんでした。

なぜかというと、他の県のように目立つたお祭りがなく、県庁所在地なのに郡山市の方がお店がたくさんあると思ったからです。

でも、「福島市民憲章」を見たときに、福島市の良い所はここに書かれていると思いました。

まず、一つ目の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。

福島市には、みどりがたくさんあります。街路樹も多くありますが、特に信夫山は木だけではなく、様々な草花が生えています。

また、色んな生き物もいて自然がいっぱ

いあります。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」です。

これに関しては、古閑裕而記念館や音楽堂などの文化に関する建物がたくさんあることがあてはまると思います。

福島市は文化的なこと、特に音楽に関する活動がさかんだと思います。

現に、世にたくさんの曲を送り出した作曲家、古閑裕而さんを始め、たくさんの方々が福島出身の文化人がいます。

それはやはり、福島市の自然豊かな環境がえいきょうしているのだと思います。

私は、小学校の卒業論文のテーマを「福島市出身の有名人」にしました。

そこで調べたところ、二十人近くの偉業をなした方たちが出てきました。

それを知って私はとてもうれしく、福島市はとてもよい所だと思えるようになりました。

私はこれから、福島市出身であることに、ほこりを持ち自分自身も「さすが福島市出身」と思われる人間になりたいと思いました。

## 『福島市民憲章』から思うこと

福島市立福島第三中学校

木谷 麻菜美

私は、「福島市民憲章」の文を見て本当にこんな安心ですごく平和な町があったら絶対住んでみたいなあと思いました。想像するととても明るいイメージがしてきました。

その中で最も注目した文は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という文です。

福島市の自然といえば信夫山や阿武隈川などがあります。私が幼児だった時や小学生だった時、川で水遊びをしたり山へ遠足や公園に遊びに行ったりと福島のみどりで遊び育ってきました。

しかし三月十一日の東日本大震災で起きた原発の事故で放射線がもれて、土じょう汚染や蓄積などのことで遠足が中止になったりしました。今では土の表面をけずったりそうじしたりして放射線を防いでいます

が、まだ数値が少し高い所があると思います。

もし福島のみどりで遊べない小さい子供たちがいたらかわいそうだなと思います。福島の子供が福島の美しいみどりの中で遊びのびと育っていくことが福島にとっても子供たちにとっても大切だと思います。

だから、福島市のみどりをよりよくきれいにし、健康で美しいみどりをつくっていくことが大切だと思いますこの文に注目しました。

福島市がもつとすこやかで明るくなれるいい町になるために「福島市民憲章」をもっと大切にしていききたいなあと思いました。

「福島市を住みよいまちに」

福島市立福島第三中学校

佐々木 未来

私は、福島市をきれいで安全で住みよい町に行きたいなと思います。理由は三つあります。一つ目は、きれいだということです。現在は、ポイ捨てのポスターをはったり、呼びかけを行ったりしているけど、それでもたくさんの人がまだポイ捨てをしているので少しずつなくしていきたいなと思います。二つ目は、安全だということです。現在でも交通事故などの事件がおこっているのだからいいなと思います。三つ目は、住みよい町だということです。きれいで人とのつながりもたくさんあって安全でまわりを守れば、住みよいまちができだと思います。

東日本大震災で、制限される活動もありますが、その中でも人と少しでも交流できればいいなと思ったし、その他でも人との交流を深めていけるといいなと思いました

た。

これからのまちを作っていくには、一人一人の協力が必要だなと思いました。一人の力では、これからのまちを作っていくのは難しいことだし、時間もかかるので協力してたがいに助け合っていけばいいなと思いました。

もう一つあります。みんなが住みよいまちにしていくなには、お年寄りや体の不自由な方にやさしくしたり、あいさつをしたりするなど、心がけをした方がいいと思います。今でも、お年寄りや体の不自由な方に道を空けなかったり、電車でも席をゆずってあげるなど、できることからやっていかない人がいるのでやっていけばいいなと思いました。あいさつは、知らない他人でも、人とあつたらした方がいいと思います。あいさつを通して人との交流が増えるからです。

今回私は、「福島市民憲章」について初めて考えたけど、できることが身近にたくさんあるなと思いました。自分でできる住みよいまちづくりは、これからも続けていって、まだやっていないことは、これから

新しく取り入れていきたいなと思いました。これからも福島市を、みんなが住みよいまちにしたいなと思いました。

## 「安全で健康なまち」

福島市立福島第四中学校

小 熊 優 歌

私は、福島市が安全で安心できる健康なまちになれると思います。

まず、安全なまちというと私は、交通ルールをきちんと守れるまちを想像します。なぜかというと、車がすごいスピードで走り、歩行者も運転手も信号を守らない、こんなまちだったら、一日に何十件もの事故が起きると思うからです。もしも、こんなまちだったら、誰も安心して外出することはできません。だから、私は福島市がきちんと交通ルールを守れるまちになると思います。そのために、歩行者は右を歩く、自転車は左を走るなどの交通ルールを確認し、交通事故ゼロの安全で安心できるまちをつくっていきけるといいです。

次に、健康なまちというと、どんなまちを想像しますか？私は、心身ともにすこやかで、いつも市民が元気に生活し、活気あ

ふれるまちを想像します。なぜかというと、体は元気だけど、活気や元気がないまちは少しさびしい感じがするからです。例えると、お店に入って、店員全員が大きな声で「いらっしゃいませ！」という店と、お店に入って、店員の何人かが小さな声で「いらっしゃいませ」と言うのでは、どちらがいいですか？ということです。私なら絶対に店員全員が大きな声で「いらっしゃいませ！」と言う店の方がいいです。そんなお店のように、市民全員が大きな声で「こんにちは！」などのようなあいさつができるような活気や元気が満ちあふれるまちになれるといいです。

そして、このような安全で安心できる健康なまちを築くには、市民全員の協力や努力が必要だと思います。

## 「福島市について」

福島市立福島第四中学校

大 島 愛 理

私は、「福島市民憲章」の中に書かれている五つの中から二つの事について、考えてみました。

まず一つ目は、空も水もきれいなまちをつくりましょう、です。これは、自然環境について書かれていました。私達の住んでいる福島市は去年の震災により、絶対に起きてはいけないうる原発事故が起きてしまいました。その日から、自然豊かな美しい福島が放射線物質により汚染されてしまいました。今までたくさん食べて福島の自まんだったお米や果物や野菜が安心して食べられなくなりました。福島市の人にとって、とても悲しい出来事だと思いました。けれど、去年から少しずつ福島市も復興されてきて除染をしているところがこのごろたくさん見られるようになりました。この空と水もきれいなまちをつくりましょうという目標

をしつかり守られるぐらいに元の福島をとりもどせるようにみんなが協力していききたいなと思います。私もできることから少しずつ福島市などの自然環境を取りもどせるようにこれから役に立っていける大人になりたいです。

二つ目は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう、です。私は、この間、出かけた時に、遠くの方で歩いていたお年寄りのおばあさんが転んでしまうところを見ました。転んでしまった所は、人がたくさん通るところで少し危ない所でした。私は、（あつ、おばあさん大丈夫かなつ）と思いました。するとすぐ三人ぐらいの大人の人がおばあさんのところに駆け寄り、落ちてしまった荷物を拾いおばあさんに手をさしのべたりしました。おばあさんは、そのおかげで、立ち上がる事ができ、また荷物を持って元の通り歩き出す事ができました。私は、その三人の姿にとっても感動しました。もし私が、おばあさんの近くにいたら、きっととはずかしくて助けてあげることができなかったと思います。普段は、困っている人がいたらたくさん人助けをしようと思っ

ていても、いざその時がきたら、何もできずにいました。助けた人は、はずかしい気持ちよりも、助けてあげたいという思いやりの気持ちで行動していても尊敬します。でも、その逆におばあさんの近くにいても素通りをしてしまう人も見ました。どうせ、だれかが助けるだろう、と自分の勝手な思いこみだと思います。もし自分が相手の立場だったら、など思いやりの精神が大切だと思います。みんな一人一人が、助けた三人のような思いやりのある行動をすれば、福島市は、もっと住みやすい町になるのではないかと思います。

この、福島市民憲章を私達のような世代が受けつぎ、もっと福島市を良くして、私達の次の世代に伝統を引きついでいってほしいと思います。今は、大変な時だけれど、たくさん笑顔が増えていければなと思います。

「きれいな福島市」

福島市立福島第四中学校

大 島 眞 詞

福島市民憲章の中にこのような憲章があります。『空も水もきれいなまちをつくりましょう』というのがあります。私は、まちをもっとよくするために、作られたんだと思いました。

私は空、水、まちをきれいにした方がいいと思います。なぜかというと、のみ水がなくなってしまうし、困るのは、私たちだからです。空は、よくアニメとかであります。みんなそういう世界では、生きたくないだろうし、そんな空ですごしたくないからです。まちでは、ごみがたくさん道路にあるまちにはだれだってすみたくありません。

もし、私が色々なことができるようになったら、家の近くのあき地に、いろんな色のコスモスや芝ざくらを植えたいです。できることならば、友達の人々と植えたい

です。他には、いつか、道路や山にゴミなどがあつたら、すすんでひろって、いけるようにしたいです。

私が理想とする、福島市は、水、空、まち、全部がもつときれいであつて、みんな笑顔でいられる福島市。ずっと、この先もずっときれいな福島市であつてほしいです。

## 「みんなの福島」

福島市立岳陽中学校

名 倉 冴 香

私は、福島に親切で愛情のあふれる場所であってほしいと思っています。親切なことをされると、皆さんもきっとなんだか嬉しくなったりすると思います。他にも、愛情のあふれる場所にするためには、まわりの人と協力し合って人に進められてからではなく自分から進んでボランティアをしたり、大きな声でまわりの人にあいさつをしたり、された人はとても明るい気持ちになり私たちも他の人にこの気持ちをわけてあげたくなりだんだんその気持ちを大きな輪にできたらそれだけでも、とても素敵で美しい福島になれると思います。それに、ボランティアをして福島を環境良く住みやすくすればもっと、愛情のあふれる場所になれると私は思っています。皆さんの多くはもう大丈夫かもしれませんが福島の一部ではまだ、東日本大震災の影響で、もどいた

くても、自分の住んでいた場所にもどれずにいる人、あいたくてももう二度とあえなくなってしまった人、遠くはなればなれになってしまった人の思いは、まだ消えていません。だからこそ、そのどんよりした気持ちのをうちけすために、明るい笑顔で大きな声であいさつをするべきなのです。その愛情のあふれる福島にするためには、もう一つ方法があると思います。それは、最近ニュースでけっこうとりあげられている「いじめ」も問題があると思います。いじめをなくせば、みんな心も真っ白な気持ちでこれからの大切な未来、今から十年後、二十年後、三十年後の本当に大切な未来を今から、自分たちそれぞれの手でつくりあげべきだと私は思っています。

それから、私はもう一つ福島にこうであってほしいという願いがあります。最初の方には少ししかふれていなかったのですが、ここからは自分の思っていることをくわしくかいていきたいと思っています。親切なことをするのは少し勇気があると思います。例えば家族の中で親切をするのは、難しいことでは無いのですが、まわりに住んでいる人

や、その場で初めて会った人に親切なことをするのは、とても緊張することだし勇気のいることだと思います。でも、少しの勇気があれば困っている人も助けられると思います。

私は、親切で愛情のあふれる福島のことをかいてみて改めて思ったことがあります。それは、自分から積極的に進んでいくことです。ボランティア活動、明るいあいさつすべて、自分から積極的にやってみればききとらえて、いい福島になれると私は、思います。

## 「緑を大切に」

福島市立岳陽中学校

佐藤 友理彩

私が住んでいる福島市には、きれいな緑がたくさんあります。

街路樹には、たくさんの木が植えられています。さくらやケヤキなどさまざまなものがあります。なので、季節によっていろいろな種類の木を見ることができます。こういう木のお世話をしてくれる人に感謝しないといけないと思いました。

街路樹のほかに、公園にきれいな緑があります。私の家の近くにある西児童公園には春にはさくら、チューリップなどのきれいな花がたくさん咲きます。また、公園の周り全体に木が植えられていて、木で囲まれているような公園もあります。自分の身の回りにそんな公園があるなんて、改めて緑が多いなと思いました。

それから、田んぼや畑の緑も豊富です。畑では、野菜やくだものを育てている人が

たくさんいます。私のおばあちゃんの家にも畑があり、きゅうりやなす、枝豆、じゃがいもなどいろいろな野菜を育てています。その野菜をもらって食べることがあります。売っているものよりもとてもおいしーいし、おじいちゃんやおばあちゃんが育てた野菜を食べられることはうれしいなと思います。田んぼでは、お米をつくっている農家がいっぱいいます。私もおばあちゃんの家でつくったお米を食べています。自分のおばあちゃんが一生懸命つくったお米を食べることができると幸せだなと思いました。

福島駅の東口には、花でつくった花時計があります。これは、福島市にある明成高校の人たちがつくってくれたものです。私も見たことがあります。いろいろな花を使ってつくられていてとてもきれいでした。福島市のもりんというキャラクターをイメージしてつくったときもあったそうです。花でキャラクターを表現することができるなんてびっくりしました。

このように、自分の身の回りだけでも、たくさん緑があることが分かります。出

かけて東京などに行ったとき、外を見ると緑よりも建物のほうが多いので、福島みたいに少し歩いただけで緑があるっていいことだなと思います。公園や街路樹にある緑が、これからも減ることなく、増え続けていくとうれしいです。そして、緑を育てる人が多くなるといいし、育てている人には感謝したいです。これからも、緑を大切にしていきたいです。

## 「福島市民憲章は

### 守られているのか」

福島市立岳陽中学校

小林 武尊

福島市民憲章は全部で五つあり、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう、教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょう、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう、そして子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。の五つがあります。

まず、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。というのは守られていると思います。

その理由は、日本で一番美しいとされる荒川があるという事です。

福島県の荒川は昔からきれいでしたが最近になってその荒川は日本一になったそうです。

教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょうというのは、教育の面で見ると全国学力テストの結果が福島県は二十八位でありほこれる順位ではありませんでした。

これはぼく達が頑張らなければならないことです。なのでこの教育と文化を尊び、希望にかがやくまちをつくりましょう、は守られているがより力をいれて頑張っていく必要があると思います。

親切で愛情あふれるまちをつくりましょう、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう、はとても守られていると思います。

なぜかという、ぼくが小学生の時に毎日あいさつしてくれた方たちや宿泊学習の時に世話してくれた方たちなどたくさんの人が親切にしていたからです。

そして子供からおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう、は守れていると思いますが、塩分摂取量が多く高血圧の人が多いため、健康のことをもっと考えた食生活をするべきだと思います。

最後に僕が福島市民憲章の中で最も印象

深く、また心に残ったのは、こどもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。です。

最近是不しん者が現れていて安全なまちとは言えません。

このことから、福島市民憲章の中でも「こどもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」は市だけではなく、県全体で、県全体だけでなく全国で、そして全世界に広まって、全世界が安全になってほしいです。

そのために僕達がまず、安全な市をつくるためにはよいと思います。

## 「おだやかなまち作り」

福島市立岳陽中学校

古川 万柚子

福島県は、そんなに荒れたまちではないと私は思います。でも、そんなまちをもっとより良いまちにするために、「おだやかなまち作り」をすればいいと思います。実際、それはどんなことをするのか、考えてみたところ、エコ活動やリサイクルをすれば、もっと良いまちにできると思います。エコやリサイクルなどは、一家でもできることです。そこで、何ができるか考えてみました。

まず、電気代をおさえるために、お風呂のお湯、流しの水、リビングの電気、ねるときや、日常でよくつかうクーラーなどを、四分の一おさえて使い、必要以外では、使わないようにところがけようと思います。

二つ目は、食材や物を大事に扱うということです。必要なもの以外あまり買わないで、長もちするように保存した方がいいで

す。それに、衣類などは、おさがりのでもいいと思います。どうせ、買っても、すぐあきて、いらなくなるものだったら、買う必要があります。なので、買う前に必要かどうか、チェックするのがいいと思います。それと、食材・食品にかんしては、物と同様に必要かどうか確かめたいと思います。安売りとかでも、とう分使わないものだったら意味がありません。その内、くさって処分するようになるからです。あと、生ゴミをあまり増やしたくないです。生ゴミを放置していると、虫などがよってくるし、においがくさいからです。でも、もし大量の生ゴミが出してしまった場合は、土の中に埋めたりして、少なくすればいいんです。しかも、土に埋めたら後に肥料になって緑が育ちます。これぞまさに、「二石二鳥」です。

三つ目は、リサイクルをおこなうということです。ペットボトルのキャップや、缶のプルトップや、アルミ缶などは、リサイクルできるものだから、集めて、リサイクルセンターに持っていったら、地球にも優しいし、環境にも優しいと思います。

それから、「おだやかなまち」を作るのだったら、ゴミ拾いもした方がいいです。でもゴミ拾いをするよりも、ゴミを、まちや川に捨てないというところがけをした方がいいです。私も、ゴミを見つけたら積極的に拾おうと思います。

「おだやかなまち作り」をするためには、前の三つのことを、ここがけて、なるべくエコ活動にはげむことが、私はいと思います。そして、その三つを私は、やりたいと思います。住みやすく、きれいなまちになるように。

## 「環境問題」

福島市立岳陽中学校

五十嵐 美咲

最近、私達の生活の中で「節電」という言葉を聞くようになりました。昨年起きた東日本大震災の影きょうもあるのだと思いますが、今、地球温暖化も問題となっています。その影きょうの例として、今北極の氷がどんどん溶けています。

そのようなことを防ぐには、どのようなことをすると、きれいな町がつけられるのでしょうか。そもそも、地球温暖化とは何なのでしょう。

地球温暖化とは、大気中に二酸化炭素やメタンなどといった温室効果ガスが増えることで表面の温度が上昇し、気候の変動が起きる現象のことです。

これの影きょうにより、大雨や干ばつなどの異常気候が起きます。

このようなことを防ぐために身近にできることはたくさんあります。

家でできることは、クーラーを28℃に設定したり、水道も多くの電気を使うので水を大切に使いましょう。

また、木を植えると育つときに二酸化炭素を吸収するので、二酸化炭素が減ります。移動するときには、近くのコンビニに行く際、自動車を使うのではなく自転車に乗って行くとガスを出さずに済むし、ガソリン代もむだにならずまさに一石二鳥です。さらに、電気をつくる時、風力や太陽の光を使えば二酸化炭素を出さずに発電できます。

このように実践するとしないとでは、だいぶ二酸化炭素の量も違ってくるはずですよ。

みなさんも、地球温暖化について見つめてみてはいかがでしょうか。

## 「福島市民憲章について」

福島市立岳陽中学校

阿部 春奈

私は、正直、この作文を書くまで福島市民憲章というものを知りませんでした。「福島の限らない発展」を願って制定されたものですが、知っている人：特に子供は少ないと思います。ですから、この市民憲章というものを広めるには、憲章を知っている人が周りの人に呼びかけたり、自分から活動していくことが大事だと私は思いました。そこで私は、この市民憲章のように福島がなっているか、そして現状に対する意見をこの作文に書こうと思いました。

まず、——空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう——という憲章ですが、実際、町の空気はきれいだと思います。特に山の方はとてもすがすがしくてきれいな空・空気だと思います。それに川もきれいな川が多いと思います。私の住んでいる福島市には全国の中でもきれいな水だと聞

きました。福島の自然はたくさんあって、本当にきれいになっていると感じました。

次に、——教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう——という憲章です。福島の学校ではたくさん楽しい行事があつたり授業が充実していたりと、子供が楽しみながら勉強できる環境だと思います。また、市民のみなさんには昔から伝わるたくさん文化があることから、この憲章もとても発展していると思います。

——親切で愛情あふれる町をつくりましょう——この憲章は、福島にとっても広まっていると思います。とくにお年寄の方はみんな親切です。また、地域の方々は会うとあいさつをしてくださったり、とても愛情のある人々だと思います。

——きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち——これは私は実際に働いたことがないので分かりませんが、お母さんやお父さんはみんな力をあわせて楽しく仕事をしています。もちろん、楽しいことばかりではないですが、市民のみなさんは自分の仕事に誇りを持って仕事をしていると思います。

最後の——子どもからお年寄りまで安全で健康なまちをつくりましょう——も、みんなが意識していると思います。散歩やジョギングなど運動をしている人はたくさんいますし、横断歩道や交通安全のイベントなども多く、たくさんの方が安全を心がけていると思います。このように、憲章を意識して周りをみてみたら、市民のみなさんに憲章がいかされていると思いました。でも、福島市民憲章を知らない人はまだいるし、これからをもっと福島をよくしていく努力は必要だと感じました。無意識のうちに、この憲章のように生活している人もたくさんいて福島市は本当にいいところだと感じました。

## 「福島市民憲章への誓約」

福島市立岳陽中学校

菅野 夏子

私は、初めてこの場で福島市民憲章を知りました。だから市民憲章の規則が初めて分かりました。

今まで知らなかった憲章だったけれど、自分の身の回りの物、人や生活の中で当てはまることが多数ありました。

一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。

私が、小学生の頃アサガオやヒマワリ、ヘチマ：を育てて空と水を使っておかげできれいな花を咲かせることができました。また、私の学校も小さな事だけれどきれいな花を小学校に咲かせることができました。

一、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。

日本の文化は、たくさんあります。その中でも私たちの地、福島でお祭りが毎年恒例、行われる楽しみがあります。今年の夏休み

で、八月四日土曜日、私は福島市で行われたわらじ祭りに行きました。その時の福島市も輝いていました。さらに、わらじ祭りでダンスが行われました。さまざまなチームのオリジナルダンスが披露されたのでいろいろな人が笑顔で満ちあふれるばかりでした。私も良い機会があれば、このようなお祭りに一緒に活動できればいいなと思いました。

一、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。

私が市バスに乗っている時、友達と二人席に乗っていました。でも私はおばあさんに席をゆずりました。そして、おばあさんは「ありがとう。」

と、言ってくれました。私は人に席をゆずったりすることが今までなかったのですが、おばあさんにお礼を言ってもらえて、とてもうれしかったです。

一、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。

私はまだ、社会に出て働いたりなど、したことがないのでよく分かりませんが、私の母達の仕事の様子を少し、うかがってみる

と、いつも険しい表情など、つらそうにいつも働いているので楽しそうには見えませんでした。私が大人になって社会に立つ日がきたら、つらくても暗い顔をせず、市民憲章を思い出し明るい感じで楽しく働けるまちをつくりたいです。

一、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。

私が少しかぜをひいた時でも、いつも母や祖母がすぐ心配して、私の事を一日でも早く治したいという行動がすぐ分かります。私の事を大切にしてきてくれたおかげで、今もとても健康です。母や祖母達も、ずっと健康でいてほしいです。

市民憲章の決まりを守り、これからは市民憲章を心にとめ、生活を送りたいです。

「僕から声をかけよう」

福島市立蓬萊中学校

大 槻 巧

僕は、この作文を書くまで、福島市民憲章というものがあるという事も、知りませんでした。読んでみると、たくさんの良い事を、みんなに話しかけている憲章だと思います。なかでも、僕は、「子どもからおとしよりまで安全で健康な町をつくりましょう。」という憲章がとても心に残りました。

僕は、毎日、くたくたになるまで部活をしています。これは、僕が、とても健康であるからです。それは、当たり前的事だったので、そうでない人の事は、考えた事もありませんでした。

僕のような、健康な中学生ではない、小さな子どもやおとしよりにとつての不都合な事って、なんだろうと考えてみました。

- ① 信号がない所での横断
- ② 階段の上り下り

③ 暗い道での歩行

④ 買い物やゴミ出し

⑤ 話し相手がいない事

⑥ 自分のしたい仕事ができない事

こんな事に、困っている人が、たくさんいるのではないのでしょうか？どうしたら、良いか考えてみました。

①は、住宅地を走る車、バイク、自転車の制限速度を決め、違反した時は、厳しいばつを加える。

②は、エレベーターを増やす。これは、お金がともかかるし、沢山あると、利用しなくても良い人が、使用するようになり、運動不足になるかと思いました。

③は、電灯を増やし、ボランティアパトロールをしましょう。

④も、ボランティアに頼む。協力的な人には、何か特典があれば、良いのかなとも思いましたが、そうするとボランティアにならないかな？

⑤は、僕も話し相手になりたいと思います。

⑥は、体が不自由とかおとしよりという理由でなくても、自分の本当にしたい仕事

をしている人は少ないと思うので、とっても難しいと思います。

僕一人の力は、とても弱く、知恵も足りません。でも、たくさんの方の力を合わせ、知恵や経験を出し合えば、いろいろな事が解決できるのではないのでしょうか？

時間がかかるかもしれませんが、集まってくれる人も話聞いてくれる人もいないかもしれません。でも、小さい事から始めないと何も変わりません。まず、僕から声をかけようと思います。

## 「福島復興と」

### 花火大会で感じたこと」

福島市立蓬萊中学校

渡 邊 希 望

私は、今年の夏休みに、福島市の花火大会に行ってきました。福島市の花火大会は、毎年、色鮮やかな花火が一万発ほど打ち上がるので、私が毎年楽しみにしている行事の一つです。

今年は、母と友達と私の三人で行きましたが、花火大会のアナウンスで「福島復興」という言葉を何度も繰り返し言っていました。私もその言葉を聞くたびに、そうか、すっかり復興した気になっていたけど、本当は、放射能もありし、まだ仮設住居に住んでいる人もいるのだから、福島は完全に復興したわけじゃないんだ...と思いました。実際、福島市の中には、放射線を心配する人もいます。だから、花火大会でも、主催してくれた人たちはがんばってくれていますが、花火を見る人の中には、屋外で

花火を見ることに対して放射線等の不安を感じている人もいるのが現状です。

ですから、私は、多くの人に福島の花火を楽しんでもらえるようにするにはどうすればよいかと考え、一つの結論を出しました。それは、屋外で見ることに不安を感じずに花火を楽しむことができ、それによって、福島市全体が明るくなる、ということです。これは私の理想ですが、多くの人が来てくれることで、主催してくれる人も元気になってくれると思いますし、市外から見に来た人などが、福島は復興している、と伝えてくれれば、風評被害なども減り、観光客も増えて、現在の福島市がもっと明るくなれると思うのです。

そのためにも私は、花火大会周辺の除染をしてほしいと思っています。福島市は、おいしい果物もたくさんありますし、花見山という観光地もあります。震災による原発事故で減ってしまった観光客にもう一度、福島に来てもらうためには、やはり除染が必要だと、私は思っています。花火大会周辺の除染をすることで、安全性をアピールし、より多くの方に来てもらえるはず

です。除染には、たくさん費用がかかり、除染作業に従事する人もなかなかいない、というのを知っていますが、自分の生まれ、育った町です。確かな安全を保ってほしいですし、多くの人に福島を知ってほしいです。とても大変なことですが、ぜひ、除染をしてもらいたいです。そして、花火大会をきっかけに、福島市を知ってもらい、市全体が明るくなればいいと思います。

私の思う復興とは、災害にあっても、災害以前より明るく、たくましくなることです。市民が、自分たちの文化に誇りを持ち、希望にあふれる、そんな福島市になればいいと思っています。そして、そんな福島市にするために、私たちにもできることがあれば、協力していきたいと思っています。

「きまりを守り

よりよい町にするには」

福島市立蓬萊中学校

高橋里奈

福島市民憲章には、「きまりを守ってよりよい町にする」と掲げられている。それを実現するためには、自分でも心がけるようにしたり、互いに注意し合わなければならぬ。

以前、図書館で借りた本を読んでいると、落書きがされてあった。読みたい所の字がその落書きで隠されてしまい、読めない所があった。このことに対して私は、本に何かを書き込んだり落書きすることはだめだし、次その本を借りて読む人の事も考えないといけないと思った。ほかにも道にたばこの吸いながら落ちているのを見つけた。しかもそのたばこは、吸ったばかりのたばこだったので、少し燃えていたし、煙も出ていた。このたばこから出る煙は体に害をあたえる有害な煙なので、これを吸うと肺

ガンになる可能性が高くなるという。自分がたばこを吸っているだけなら自分に害がふりかかるのはしかたがないと思うが、ほかの人にまで悪い影響を与えるようなことをしてはいけないと思う。

また、駐車場に車を止める場所がないからといって、体の不自由な人が止める場所に止めている人がいた。近くに止めたほうが楽だからなどという自分本位な考えで止めてはいけないと思った。体の不自由な人がいるのに元気な私たちがそのようなことをやってはいけない。逆に親切にしてあげなければならぬ。

逆に、親切な人だなあと思ったことがある。電車に乗っていた時だ。中は満員でギューギューづめだった。そこに小さな子供を抱いて荷物を沢山もっている人が入ってきた。その人はとても困った様子で、あいっている席を探していた。すると、一人の女性が「ここどうぞ。」と言って席をゆずってくれたのだ。とても親切だなあと思った。このように、私の経験上、福島市には、親切な行いをできる人もいるが、「モラル」やきまりを守れてない人も少なくないと思

う。

この町が、「モラル」を守れるように、沢山の人たちで力を合わせてよりよい町にするためには、地域の人たちの協力が必要だ。自分でも気をつけなければならない。人にばかり、「あれはやってはいけないんだよ。」だよ。それもやってはいけないんだよ。」などと、命令口調ではだめだ。まずは、自分で実行した上で周りの人たちにも、きまりを守ってもらえるようにすることが大事だと思う。呼びかけることによって注意された人は、自分でもきまりを守るようになると思うし、またその人がだれかを注意し、またその人がだれかを注意し、バトンリレーのようにして、お互いに注意し合うことで、きまりの守れるよりよい町々になっていくのではないだろうか。私達のお互いを思いやる心で、誇りを持てる福島市を実現したい。

## 「未来」

福島市立蓬萊中学校

平川 慶

私の理想の福島は、「放射能」が無い世界です。理由は、放射能が無ければ小さい子供から高齢者まで安心して暮らすことができ、公園でも楽しく遊ぶことができるからです。

でも今は、放射能の関係で前遊んでいた公園にも行かなくなり、近所の人達が引越しをし始めました。また、津波の被害にあった方々が引越しをしてきたりもして周りの様子は変わりましたが、一向に放射能の不安がなくなることはありません。

あれから約一年半がたち、福島市ではやっと除染が行われようとしています。優先順位というものがあり、なかなか私達の町には回って来ません。大波地区・渡利・南向台・蓬萊地区という順番で、除染されると聞いていました。昨年の夏から秋にかけて、除染されると聞いていましたが、除

染されず、今年の夏には除染されると聞いていましたが、除染されず、いつになつたら安心な蓬萊地区になるのでしょうか。

話を聞く所によると、いろいろな問題があるそうです。

一番大きな問題は、仮置場の確保が難しいということだそうです。除染によって出る汚泥などを埋めるための確保です。その地区内に設けるために仮置場の候補があがっていても反対意見などもあり、なかなか確保につながらないようです。

私達の町会では、小さな子供が居る家優先に家屋の除染を行えると回覧板で回ってきましたが、我が家は除染していません。家が密集していることと、除染によって流れる水が低い土地に集まってしまうことから悩んだ結果だそうです。近くの公園も、夏休み中に除染をする聞いていましたが、今だに荒れたままです。

どのようにしたら安心して生活ができるようになるのでしょうか。

それは地域の意見をまとめることが一番早い解決策だと思います。そのためには仮置場一つにしても放射能に詳しい方による

勉強会で仮置場の構造や仕組み、安全性を知ることだと思っています。

私には、どうすることもできませんが、私には未来があります。こうしている間にも放射線を浴びています。ホールボディカウンターで今異常がなくても、何年か後にどうなるかは分かりません。引越し出来る状況でもありません。この地域で生きて行くためにも地域一丸を願います。

「福島の市民憲章」を実現するための一歩をみんなで見たいと思います。

## 「福島市をよりよいまちに」

福島市立蓬萊中学校

山 本 菜々子

「安全で健康なまち」この市民憲章はとても重なるものだ。だけど福島市がそうなるためには、問題点を改善していかねばいけないと思う。

一つ目は、放射線の問題。私の近所にある公園では、震災後いつもいた子供たちの声が聞こえなくなってしまった。遊べるとしても一時間以内になるという看板もたてられ、公園の遊具がただの置きものになったようだった。それだけじゃなく風評被害もすごかった。私たちはその被害を受けた側だが、もし外からみれば「福島の」とつくだけで疑ってしまうのも分からなくはない。今ではその被害も少なくなっているようだし、その公園の除染作業も最近終わったが、やっぱり完全に解決しているわけではないので「安全である」と断定するのは難しいと思う。

二つ目の問題は、交通マナーについてだ。学校に行く途中の道に歩道がせまい場所があるのだが、そこを歩いているとたいがい車はよけて徐行してくれる。でも、中にはものすごいスピードで歩行者のすれすれを横切って走る車もある。私がそれをされた時は、とても驚いたし何より怖かった。交通マナーのことはなにも運転手の人たちだけではなく、歩行者の人や自転車に乗る人にも言えることだ。歩行者側も車が赤信号で止まっているからとはいえ、渡ろうとすれば危険だし、自転車だってスピードを上げすぎれば事故にだってなりかねない。このような問題も解決していくべきだろう。

放射線を気にせず遊んだり農業などができたり：そしておとしよりや子供のれもが、安心して道を行き交える：そういうまちが私の理想である。では福島市がそのような町になるためにはどのようにしたらよいのだろうか。放射線については、一年や二年で変わる簡単な問題ではないことは分かっている。現にあれから一年過ぎたが大きな変化はあまり見られない。だから除染

作業をいろんな場所で一刻も早く進めていってほしい。校庭もそうして使えるようになっていけるし前よりは安心できるようになるだろう。そしてもう一つ、交通マナーについて。私はこの問題は簡単なことだと思う。一人一人が相手のことを思いやればいい話だからだ。こうしたら危ないのではないか、相手を危険にさせないだろうか、ただそれだけ考えればいいのだ。そうすれば事故だって未然に防げるかもしれない。

一人一人の心次第でまちは変わっていくのだろうと思う。私は福島市が今よりもっと安全で健康なまち、そしてふるさとであると誇れるようなまちになってほしいと思う。

## 「福島を取れたて野菜」

福島市立蓬萊中学校

菊田 千乃

「おばあちゃんの作った取れたての野菜  
って買う野菜よりおいしいよね。」

と言いながら、いつもたくさん野菜を  
らって食べていた。私のうちでは、あまり  
野菜を買うことがない。私は、小さい頃お  
母さんに聞いた事がある。

「どうしてお店の野菜をあまり買わない  
の。」

と言うと、お母さんは、

「お店の野菜より、おばあちゃんの作っ  
た野菜の方がおいしいからだよ。」

と言った。確かに言われてみると、お店で  
買ったピーマンは、食べることができなか  
ったが、おばあちゃんが作ったピーマンは  
食べることができたのだ。それから、私  
はきらいだった野菜などほとんど好きに  
なり、食べることができている。でも、今  
はおばあちゃんの野菜をお母さんはえんり

よして、もらわない。お店の野菜を買うこ  
とが多くなってしまった。それも、福島県  
からちよつとでも遠い県産の野菜を買って  
いる。

今の福島の現状は、東日本大震災の被害、  
『原発事故』に悩まされている。放射能が  
ありとあらゆる所にとばされ、「空間線量  
が高く、あまり外で遊べない」、「野菜、米、  
果物などに汚染の心配があり、安心して食  
べることができない」など、ほかにも色々  
な問題がある。私のお母さんがおばあちゃ  
んから野菜をもらわなくなったのもこの事  
故が原因だ。もしかすると、今の福島は人  
が住める状況ではないのかもしれない。

しかし、この福島が前みたいなの福島にな  
るには、私たちが少しがんばればいいのか  
もしれない。福島の土地は今放射能に汚染  
されている。テレビなどで専門家の話を聞  
いていると高圧洗浄機で道やかべなどを洗  
うと少し線量が下がる方法を除染と言っ  
た。こういうことを少しずつ積み重ねてい  
くと、線量が下がり本来の福島が戻ってく  
るのではないのかと私は思う。

本来の福島。それは空気がきれいで、野

菜や果物を収穫し、地産地消ができる、「う  
つくしまふくしま」なのだ。市民憲章にも  
「空も水もきれいなみどりのまちをつくり  
ましよう。」とある。しかし、今は、福島  
のほりりでもある「美しい町」が消えかか  
っている。美しい町を守るには、福島を少  
しずつ除染し、みんなが安心して放射能に  
悩まされることなく住めるようにすること  
だ。これは私の、これからの福島の理想で  
もある。そしてなにより私は、おばあち  
ゃんの作った野菜をお母さんがえんりよせ  
ずにもらい、家族全員で、

「おいしい。」

と言いながら食べることができるようにな  
ってほしい。それが私の一番の願いだ。

## 『福島市民憲章』を見て」

福島市立北信中学校

湯田 美悠

私が、「福島市民憲章」を見て感じたことを五つ発表します。

一つ目は、「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」を見てです。これは、空も水もきれいにすんでいて住みやすいまちにしようという意味だと思います。私も、空も水も何もかもがきれいになっていくといいな、と思います。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」を見てです。これは、教育と文化を大事にし、希望に満ちあふれるまちにしようという意味だと思います。私も、福島市の文化と教育を尊重し、希望を失わず、輝き続ける心を持ちたいと思います。希望を失くしてしまったり、輝けるどころか、どんどん暗くなってしまう気がします。希望はとても大切ななあとこの憲章を見て思います。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を見てです。これは、一人一人がお互いを助け合い、良い心を持つ人であふれるまちにしようという意味だと思います。私も、親切でいろんな人に優しく接することができる人やまちななればいいなあと思っています。人間は、心の冷たい人やすぐ暴言を吐いたりする人たちもいますが、そういう人、全員に怖がらず優しく話しかければそういう人たちの心も優しくなるんじゃないかと私は思います。

四つ目は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」を見てです。これは、規則正しく、お互いを助け合って自分の仕事に頑張って取り組めるまちにしようという意味だと思います。私も将来、大人になったら、ルールを破らず、辛いことがあっても乗り切れる自分やまちをつくりたいと思います。他の人が困っていたら助けるのも、ルールの一つだと思います。

五つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」を

見てです。これは、子どもからおとしより、あらゆる人が、支え合って安全で健康に生きていけるまちにしようという意味だと思います。私も、これから大人になっても健康で、事故にあわないように注意深く、そして楽しく生きていけたらどんなに幸せだろうと思います。将来、病気になんかなったら辛い人生を送ってしまうと思うので、命は大事だと感じさせられました。

この、「福島市民憲章」の五つを一つにまとめると、「環境をよくし、希望にあふれ、助け合える力を持ち、規則を正しく守り、いつまでも幸せに生きていける福島をつくりましょう。」ということになると思います。

この五つの憲章を読んで、本当に良かったなあと 생각합니다。これから、この憲章を胸に刻んで、自分の人生を正しく、そして楽しく生きていけるようにしたいと思います。

## 「ポイ捨てはいけない」

福島市立北信中学校

佐藤 花

私は、福島が大好きです。なぜなら、福島の人みんなに優しいからです。地域や近所どうし、親切にして、助け合うことはとても良いことだと思います。おたがいに、親切にしたり、助け合えば、地域みんなが大きな家族のようになります。そして、もし自分の知っている人や、同じ地域の人が、道にゴミを捨てたり、悪いことをしたら、注意して、それを直していけると良いと思います。また、近所に、目の不自由な人がいるとか、一人暮らしのお年寄りがいるとか、そんな人がいたら、たまに会いに行ったりするとか、一緒におしゃべりするとかすれば、もつともつと親近感がわいて、より良い地域になると思います。もし、目の不自由な人が、近所にある小さな段差とか、ペットボトルやカンのゴミがたくさんあって前へ進めなくて困っているとか、そうい

うことがもしあったら、段差をなくしたり、ゴミ箱を置いて、もしゴミが落ちていたら、自主的に拾うとか、すれば目の不自由な人はもちろん、町の人みんなが、そこを気持ち良く通ることができると思います。

最近の若い人たちや大人は、道にゴミを捨てる人が多いと思います。たばこを吸っている人は、車の中で吸っているとき、道路に灰を捨てる人をたまに見かけます。あと、中学校に行く通学路でも、カンやペットボトル、たばこの吸いガラが落ちていたときがあります。だから、もつと意識して、ゴミはゴミ箱にちゃんと捨てる習慣をつけてほしいです。あと、駅でよく見かけるのは、ゴミをゴミ箱に捨てているのは良いんだけど、燃えるゴミをペットボトル専用のゴミ箱に入れる人がいることです。駅では普通、ペットボトル・カン・ビン、燃えるゴミなど、ゴミの種類によって、ゴミ箱が分かれていると思います。なのに、燃えるゴミをペットボトル専用のゴミ箱に入れる人がいます。そういう人は、普段から、ゴミの分別ができていない人だと思います。だから、今度から、ゴミの分別のクセをつ

けてほしいと思います。別に手間のかかるようなことではないと思うので、ゴミはゴミ箱に、ゴミは、そのゴミ専用のゴミ箱に捨てるということを、ちゃんとやってもらいたいです。みんなポイ捨てをしたら、せっかくきれいな自然がたくさんある福島が、ゴミでいっぱいになってしまいます。自分の古里を汚さないためにも、ポイ捨てはやめてほしいです。町にゴミがなくなれば、みんな気持ち良く過ごせるし、きまりを守れる福島市民になれると思います。

## 「高齢化社会について」

福島市立北信中学校

角 田 紗 季

私は、いつも元気で優しい祖父母や、学校へ登校するとき、

「おはようございます。」

とあいさつすると、優しい声で

「おはよう。いつてらっしゃい。」

と交わして下さる、地域のおじいさんやおばあさん方が大好きです。

私は以前、幼稚園に通っていたころ、幼稚園の行事で、近くの老人ホーム「オリブの里」を訪れたことがありました。その時に、私達は、自分で点てた抹茶を、押し花で作った枝折りといっしょにプレゼントしました。私がプレゼントしたのは、大きな老眼鏡をかけた、車椅子に座っているおじいさんでした。おじいさんは、何度も、「ありがとう。ありがとう。」

と、私の頭をしつこいくらい優しくなでて下さりました。その時は、どうして私と初

めて会ったのにこんなにまでしてくれるのだろうと不思議な気持ちと、とても喜んでもらえてうれしい気持ちでいっぱいでした。

私は小学生になり、茶道クラブという、抹茶を美味しく点てられるようにしたり、お茶を出すときの礼儀や作法を身につけるクラブに入りました。なぜかという、自分の祖父母や、地域のおじいさんやおばあさんに、感謝の気持ちを伝えるとき、美味しい抹茶を出してあげたいと思ったからです。しかし、自分の祖父母にはお茶を出すことができたものの、なかなかよい機会がなく、地域の方々にお茶を出すことはできません。そこで私は、来年に控える、職場体験の事業で、ぜひ、老人ホームで体験をしたいと思っています。そして、自分の点てた抹茶をたくさんのおじいさんやおばあさんに飲んでもらいたいです。

「ありがとう。」

と、うれしそうに笑いながら飲んでもらえるように、私もたくさん練習をしたいと思っています。

私が将来大人になるときには、このままだと日本は高齢化が進んでいくと思いま

す。私は、少しでも社会の支えになるように、高齢者のために働く仕事に就きたいと思っています。以前テレビを見たときに、老人ホームでお年寄りのリハビリを手伝う仕事をしている人の紹介を見ました。それを見たときに、この仕事はお年寄りのためにもなっているし、地域医療の支えにもなっているのです。すごい仕事だなと思いました。その人は、何事も

「やりがいのある仕事です。」

と言っていたので、大変なときがあっても、いっしょに頑張っているお年寄り笑顔になれるときがある。そんな仕事なのかなと思いました。私も将来、その仕事に就きたいです。そして一人でも多くのお年寄りの記憶に残るような、明るくてとても優しい人になりたいです。

## 「未来に繋がるまちづくり」

福島市立北信中学校

佐久間

愛

福島のまちをつくるために私たちができることは全て、みんなで協力しないとできないことばかりです。私が思う福島のまちづくりは3つあります。

まず1つ目は、あいさつをみんなちゃんとすることです。あいさつをするのはあたりまえですが、それがはずかしくて言えない人もいます。ですがあいさつをすれば元気にみえるし、子どもからおとしよりまでみんな仲良くなれます。なのでみんなはすかしがらず元氣にあいさつをすれば明るくなると思います。

2つ目は、ポイすてのことです。私が道路を歩いているときや通学中などに、ガムや空きかん、ペットボトル、おかしのおくろ、たばこなどがたくさんおちています。これらは全て人がポイすてしたものです。しかもこのゴミはすぐになくなることはな

いので、とても自然に悪いですし、道路だけでなく山や海、川などにすててる人たちもいるので次にきた人たちがとても不愉快です。しかもきれいな山や海、川などがきたく見えてしまいます。なので、ポイすてしてあつたらひろい、ゴミ箱にすてて、ポイすてしている人がいたら勇気をだして言うてみるのが大切だと思います。みんなができるようになれば、まちは今まで以上にきれいになり、自然も良くなると思います。

3つ目は、きまりを守ることです。きまりを守るのはあたりまえですが、守つてない人もいます。特に自転車が危ないと思います。スピードが速くて人や車にぶつかることが危ないし、二列三列になるとじやまになります。あとは、信号無視です。信号が赤だけど車がきてないから渡るというのは絶対にだめです。車がきてないからといってきまりを守らないのはおかしいと思います。最後は標識のことです。道路から目立つよう、赤で止まれと書いてあるのに、一時停止もせずに通つていく人がいるからです。これも自転車のスピードが速く、一

時停止もせずに道路にでたら、人や車、同じ自転車にぶつかるかもしれないし、それで大けがになるかもしれない。ちゃんと標識を見ることが大事だと思います。

この3つのことは、みんなで協力して言いあうことが大切だと思います。あいさつをみんなをやつて、ポイすてはしない。してあつたらゴミを見つけた人がひろいゴミ箱にすてあげる。あたりまえのきまりをあたりまえに守る。それをやっていけば、未来のまちは明るくきれいで安全なまちになっていると思います。

## 「福島的美しさ」

福島市立北信中学校

森 田 千 理

ある暑い日、ぼくは部活の応援で、あるグラウンドに来ていた。観客席には十五人くらいの人がいて、僕達はベンチの横で応援だ。

試合が終わると、僕と数人で、落ちているゴミを拾い、すぐ準備をしようとしたのだが、ゴミの量がわんさか出てきた。タバコのすいがら、ラップ、それにペットボトル、とてもすべて取り除けない。そういえば、前に祖父の家に行った時、大事な畑にアルミ缶が転がっていた。がっかりしているような顔をしていた祖父だったが、缶を拾った僕にニコツと笑ってみせた。その笑顔は、さみしきの裏にあるものだとすぐに分かった。

そんなことを考えながら、またゴミを拾い始めた。すると、さらにタバコを捨てた三十代くらいの男性がいた。目の前でゴミ

を拾ってる人達がいるのに捨てるとはな、と心の中で思いながら、一度スルーして、その人がいなくなったら拾う。そのやりとりは、二度あった。

グラウンド整備が終わるころ、それとほぼ同時に始まったクリーン活動的なものも終わろうとしていた。するとアメ玉のふくろが、フワツと飛んできた。見ると小さな子が母親といっしょにいて、僕にペコツとおじぎをし、

「ありがとう。フクロ持つてるから。」

と言って、ずっと手に持っていた全てのゴミを指した。僕はアメ玉のふくろだけ、そつとその子に返した。その後、さっきのタバコの男性があやまりに来てくれた。近くの人におしえてもらったみたいだ。

「並んであいさつするぞ、一年。」

キャプテンの声が聞こえる。すぐダッシュで先生の持つ大きなゴミぶくろにどさどさつと入れて並んだ。さっきまで愚痴を言いつつになつたゴミも、あるていどかたずいた。また、僕自身もどこかかたづき、ちよつとうれしく、ほこらしく思えた。その時、ふと僕はポイ捨てという言葉と、ポイ

捨てをやめようという二つの言葉がうかんだ。どんなにポイ捨てをやめようと言っても、ポイ捨てはなくならない、なぜだろう。どんなにポイ捨てがなくなっても、ポイ捨てをやめようという言葉はずっと続いている。なぜだろう。それは、「福島の強み」であり、「福島的美しさ」であると考えることができた。

どんなに悪い人がいても、良い人がいる。それどころか、悪い人が良い人になっていく。まるで幸福の階段を一步一步のぼっていくように。ポイ捨ては一番小さな見本かもしれない。捨てる人がいて、拾う人もいて、拾う人がいる。あの子や、タバコの男性、そして僕達のように。親切で愛情あふれるまち、空も水もきれいなまち、その階段も、少しずつのぼっていききたい。今日のあいさつは、人をいなくなったグラウンドに、静かに響き渡った。

## 「福島市民憲章について」

福島市立北信中学校

長 野 野々香

福島市民憲章は、昭和四十八年四月に制定されています。この作文では、憲章に書いてあるようなまちが、本当につくられているか、自分なりに考えてみました。

一、空も水もきれいなまちをつくりましょう。私の家の前には、小さな川がありますが、とてもきたないです。ゴミが大量におちっていて、草がのびてます。でも、水はそんなににごってないし、ユリの花も咲いています。少し前に、猪苗代湖に行ったとき、ゴミがありました。ゴミはとれるので、川も湖も清そう活動をすると思います。

二、教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくりましょう。これは、つくれていると思います。今の時代は普通に、小学校・中学校に行けてます。どんなに、勉強がきらいな人でも、絶対に、将来のために必要

なことだと思っているはずですよ。

三、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。これについては、半分半分です。登校中や下校途中に、あいさつをしてくれる人と、私がいさつをしても返してくれない人がいます。あいさつだけで、親切、不親切かはわかりませんが、あいさつを返してくれる人のほうが親切に見えます。さらに、一学期に、登校中自転車で転んだときに、出勤中の方が声をかけてくれました。「だいじょうぶ？ けがない？」と聞いてくれました。親切な人だなと思いました。仕事場に行く途中でいそがしいのに、他人に声をかけてくれるのはすごいです。私もあんな人になりたいです。

四、きまりを守り、力を合わせて楽しく働けるまちをつくりましょう。働くということは、なれていないのでわかりませんが、きまりを守るといのは、一部の人しかできいないと思います。私自身、きまりを守れていないときがあります。さらに、事故や犯罪がなくならないのは、きまりを守らないからだと思います。

四、子どもからおとしよりまで安全で健

康なまちをつくりましょう。この作文を書いた今日、北信中の生徒が事故にあっています。私は、自転車でころんだり、けがをしたりしていますが、病気にはあまりかかりません。私の曾祖父は、百一さいまで、健康に生きていました。残念ながら今年亡くなりましたが、私が小学四年生のときまで普通に自転車に乗ってました。

このように、憲章では、達成されていないことが多くありますが、近い将来、これらが全部達成できるように一人一人が努力してほしいです。

## 「福島市民憲章を考えて」

福島市立北信中学校

菅野 愛実

私は、このコンクールで福島市民憲章を初めて知りました。福島市民なのに今まで知らなかったので少しはずかしいです。でも私のように福島市民憲章を知らない人も多いんじゃないかと思います。なので、一人でもたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。そのために私はこの作文を書きます。

私が心に残った福島市民憲章が二つあります。一つ目は、空も水もきれいなまちをつくりましょうです。私の家の近くには昔、きれいな川がありました。生き物もいました。でも最近は川だったのがどぶのようになってきたなくなり、生き物たちも見なくなってしまうしました。原因はよく分かりませんが黒くにがり、けがが生えほうだいになっていました。ですが、ある日かんぱんのような物が川の近くにとりつけられました。そ

れは五・七・五が書いてあるかんぱんだったのですが自分たちの地域の川を大切にきれいにしようという内容の五・七・五でした。それを見て私はやっぱり地元を忘れないで川を大切にしてくれる人がいるんだなあと思います感動しました。なので私も地元の川や空や水、緑、自然を大切にして大好きになりたいです。

二つ目の心に残った福島市民憲章は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうです。

その理由は、私は中学生なのでまだ働けないけれどこれから大きくなって働くようになったらきまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちだったらいいなあと思いました。それにはこのまちの一人一人の気持ち、思いやりからこの目標につながるんじゃないかと思いました。私の親も働いているのでよく仕事のことをきいたりするので、やっぱり辛かったことや楽しかったこと良かったことを話してくれます。それで、仕事や働くことの大変さなどがすごく分かりました。けれど、私たち家族のために大変な仕事をしてくれてありがたいなあ

と思いました。そのような人たちはもっとたくさんいると思います、その人たちのためにも私たちのためにもきちんと働ける楽しい職場などを目指して地域のみんなで協力していきたいです。

最後に私は福島市民憲章のように未来に残したい目標をもちたいと思いました。そして考えた目標は、福島市民憲章一つ一つを守りうけついでいくことが大切なんじゃないかと思いました。この福島市民憲章を周りの仲間たちに伝えたい、実せんしたいその気持ちを大切にしてもっと福島市を大好きな人がもっと増えるようがんばりたいと思います。

「福島をきれいに」

福島市立松陵中学校

中村 郁仁

私が、福島市民憲章の中で印象に残っているのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。

昨年の東日本大震災の時に、私が住んでいた町は水が止まりました。電気やガスも止まった地域もあったのですが、水が止まっただけでも大変でした。なので、震災後、水が出たときは水を大切にすることということがよく分かりました。

もう一つは、原発の影響です。

福島県は、震災と原発で二つの大きな被害がありました。

私はその時、小学校六年生で原発の問題が起きたとき、テレビを見て、何も分からないで、そんなに大変なことになるとは思っていないませんでした。

まず、放射能の影響でなかなか外に出て遊ぶことができませんでした。そのため、

登下校で夏の暑い日でも長袖や手をおおう物をして登下校をしていました。そして、暑くても窓が開けられず、暑い思いをしていました。

そして、一番の思い出は、楽しみにしていた行事がなくなったことです。

プールはもちろん、外で遊ぶことや体育、鼓笛パレード、運動会などがなくなりました。

私は、このようなことで自然の大切さがよく分かりました。放射能があれば空気が汚れていくし、震災があれば木がなくなる場合もある。水も止まれば、生活が不自由になることなど、私たちは自然に助けられているし、恵まれているんだと思っています。

なので、これからは一人一人が自然について考え、ポイ捨てや自然破壊をなくさなければならぬのです。

それをすれば、地球温暖化の防止にもつながり、恵まれていることに感謝して一日を大切に、むだ使いをなくすことから始められると思うので、私はこれから、少しでも水のむだ使いや環境のことを考えて

## 「ポイ捨ての問題、対策」

福島市立松陵中学校

布施野 麻由

私の一番身近な川は、「水原川」です。水原川は、いつもきれいです。しかし、たまにビニール袋や割り箸が川辺に落ちています。

夏になると、大勢の人が遊びに来る「海」。その海も、川が汚れていると汚れてしまいます。すると、海では遊べなくなってしまう。人がポイ捨てして海が汚れ、人が遊べなくなる…。それは仕方のない事だと思っています。なぜなら、人が自分で海を汚しているからです。

以前、ポイ捨てによる、こんな事故を聞いたことがあります。

それは、川から海へ流れていったビニール袋がカメの頭にかぶさり、そのカメがエサを取れなくなってしまうという事故です。私はこの事を聞いて（人のポイ捨ては、環境だけでなく、動物にも影響をおよぼす

んだなあ…。）と思いました。この事故は、人間がカメを殺した事になってしまうのでしょうか？だとすると、私はとても悲しいです。

川や海に限らず、道にも落ちています。道路に空き缶や他のゴミが落ちていて、車のタイヤに巻き込まれているのを何度も見た事があります。見ている方も怖いし、車を運転している方もびつくりすると思います。

しかし、シンガポールでは、いつさいこのような事はありません。なぜかというところ、シンガポールでは、ポイ捨てをすると罰金を取られるからです。誰でもお金を取られるのは嫌なので、ポイ捨てがないのです。

他にも、こんな工夫をした国があります。一つは、ゴミを捨てるとおもしろい音がなるゴミ箱の設置です。珍しいし楽しいので、みんながその辺りにあるゴミを拾って、捨てるのです。この事によって、落ちているゴミが減少します。

次に、二つ目です。一つ目と似ているのですが、ゴミを捨てる事によってゲームが出来るという仕組みのゴミ箱です。みんな

でスコアを競うため、ゴミをたくさん拾って何回もやります。

このような工夫が、日本にもあったら良いと思います。そして、福島からまちをきれいにし、日本全体へと「きれい」が広まると良いと考えました。

## 「緑の大切さ」

福島市立松陵中学校

森 口 園 未

私は「福島市民憲章」を読んで、「空気も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という最初の文が一番印象に残りました。

川を見てみると、ごみが流れていたり、汚れていたりするので、もっと川を大切にしなければならぬと思いました。

私が小学校四年生の時には学校の近くの川で、生き物の観察をしたことがありました。その時は、今よりもきれいだっような気がします。前のような川に戻すには、まずは自分が行動しなければいけないと思いました。汚れている水を流さないことから自分でもできると思います。できることから少しずつでもやればきれいな川になると思います。

私が住んでいる松川町は、緑がたくさんある町です。このままきれいな緑がずっと

続けばいいと思いました。この松川町の緑を見ると松川に住んでいて良かったと思います。松川町は、あじさいが有名なので、あじさいだけではなく、町全体が有名になればいいなと思いました。

私は、建物ばかりある所より、自然がたくさんある町の方がとても落ちつきます。いやな事があってもこの松川町の自然を見ればどんな人でも必ず落ちつくと思います。松川町の緑は他の町にはない良さがたくさんあると私は思っています。

私は、松川町に緑がなかったら今はどんな町だったのだろうと考えることがあります。緑がなかったら、あじさいも有名ではなかったし、他の町にはないような良さはなかったと思います。今の松川町には、あじさいや、他の町にはない良さを持った緑がたくさんあるから松川に住んでいて良かったと思えると分かりました。

## 「『安全第一のまち』への一步」

福島市立松陵中学校

安 齋 陽

私は、学校に行く手段や移動手段として、自転車を利用している。自転車は左側通行。それくらいは常識だ。

だが、登下校中に見てみると、多くの人が右側通行をしている。その大部分は高校生などの、ある程度の年齢の人や大人なのだ。駅に向かう高校生としても、駅が右側にあるならば右側に沿って楽に行きたい、というのもあるのだろう。

しかし、私は右側通行をしている自転車にぶつかりそうになった事は何度もあった。実際に、そういった事で事故になった場合もあるらしい。なのに、それでも危険な右側通行を止めないのは何故だろうか。ちよつと横断歩道を渡れば良い事ではないか。私には、先程いった事の様な、自分のための都合が、人の迷惑になる、危険な状態になる、といったリスクを負うまでの事

の様には感じられない。

それに対して、「安全な交通方法」というのは、小学校から中学校の授業の中に組みこまれている事だ。知らない筈はないと思う。だが、私はそこで、皆が「知っているだけ」だというのに気付いた。右側通行は危険。それは知っている。だが、「それがどれくらい危険なのかというのを本当に理解せずに、知識だけで知ったつもりになっているのだ。事実、私も左右を確認せずに信号の無い横断歩道を渡り、車にひかれそうになった事がある。左右を確認してから横断歩道は渡る、というのは小さい頃からよく知っていた事だった。だが、私はそれにも係わらず、そうしなかったのだ。それがどんなに危険か理解していなかったから。私はその後から、どんなに待たされようと車が来たら横断歩道を渡らず、左右を確認してから渡るようにしている。私はその大切さを、「知識上」ではなく「本当に理解した」のだ。右側通行者も、それがどんなに危険かを理解せずに、理解したつもりになっているのだと思う。だが、事故にあってから理解してはおそい。ではど

の様にすれば良いのか。あれだけその様にして事故をおこした、というのは耳にしている筈なのに、安全な方法をとらないのだ。そうしてみると、呼びかけも大事だが、結局それが心に響かないと意味が無いのだと気付かされた。一人一人が気をつけ、心がけないかぎり事故は減らない。一人一人が真剣に考えないかぎり、安全はうまれないのだ。

自転車の交通の仕方にかぎらず、物の使用の仕方など、色々な場面で安全さを考え、心がけながら実行し、「こどもからおとしりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という、この言葉の様なまちにしていきたいと思う。皆の理解が深まり、安全な事で誇れる様なまちになってほしいと考え、心からそう思った。

## 「明るい未来のために」

福島市立松陵中学校

菅野 彩音

私が「福島市民憲章」を読んで一番印象に残ったことは、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」という言葉です。

この文章でまず頭に浮かんだことは、「学校のきまり」のことでした。学校にはたくさんさんのきまりがあります。例えば、「ろうかを走らない」ことや、「授業中は席を立たない」などです。

私は「ろうかを走らない」というきまりをやぶってしまったことがありました。それは小学四年生のころ、とてもいそいでいて少しろうかを走ってしまいました。そして、ろうかのかどをまがったら、反対側から歩ってきた人とぶつかりそうになってしまいました。

やっぱりきまりは守らないといけないと改めて思いました。

次に頭に浮かんだことは、「力をあわせて楽しく働く」ということです。私は「保健委員会」にはいっています。保健委員会の仕事は、水道などの水だしや水道のそうじなどのたくさんのお仕事があります。その仕事を各クラス二人ずつで活動します。仕事を楽しくやるには、二人で協力しあい仲良く活動することが大切だと思います。それは、委員会だけではなく、他のことにおいても言えると思います。

私たちが明るい未来をつくるには、きまりをきちんと守り、そしておたがいおもしろいやり方をもち、協力して、何事にも楽しく取り組むということが必要だと思います。それをずっと続けていけば、きっと、とても明るい未来をつくっていけると思います。

それを実行するにはまず、自分のいけなところを自覚し自分からかえていきたいと思っています。すぐにかえられないときはゆっくりと少しずつ直していきたいと思います。

そして、みんなが幸せになれることを願っています。

## 『楽しむ場』を大切に！

福島市立松陵中学校

丹 治 玲 菜

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という文が印象に残りました。

私の家のとなりには、『土合山』という公園があります。土合山には、アスレチックや展望台など、子供からお年寄りまでみんなが楽しめます。

しかし、去年の東日本大震災から、遊びに行く人も少なくなっていると感じていました。

土合山では、あじさいがきれいに咲いていて、毎年「あじさい祭り」が開催され、大勢の人がゲームや踊りなどを楽しんでいます。私も、小さいころは、春は桜、夏はかぶと虫やくわがた虫、秋は紅葉、冬はそりすべりなどで、家族で遊びに行っていました。毎年、地域の人たちで土合山のそうじをしていて、きれいなのは保たれて

いるのですが、放射線量が高いと予想される所も多く、その理由で、遊びに行く人が少なくなっているのだと思います。私は、そのことをとても残念に思います。最近、外で遊んでいる子を見ますが、『放射線が多いから』という理由で、公園に行けなかったり、外での行事の時間を制限されていると、きゅうくつな部屋に閉じ込められている感じがします。

私はまず、公共施設の放射線を除去することを一番にしたいと思います。土合山は私が産まれるずっと前からあります。しかも、毎年行事や清掃が行われている、土合山はみんなに大切にされているのです。これから、私たちの子供も土合山で遊べるように、今の世代の人たちがこれからも土合山やみんなが楽しむ場を大切に守ってほしいなと思いました。

## 「ふくしまキッズに参加して」

福島市立松陵中学校

鈴木陽介

ぼくは、この夏「ふくしまキッズ夏季林間学校福島プログラム」に参加し、鮫川町へ行きました。

このプログラムは、福島原発事故により、深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校長期休暇期間に、放射能の心配をすることなく思いきり遊び、のびのびと過ごすことができること。また、子どもたちの「学びと育ち」を支援する各種教育事業を実施し、多様な体験と交流を創りだすことを目的とし、福島や横浜、北海道などのいくつかのNPO団体が集まり、企画したものです。ぼくも昨年の夏に、二週間北海道に参加し、今回で二回目となります。今回も北海道でのプログラムがありました。ぼくは、家が都合で本来の日程の一日おくれでの参加になり、三泊四日となりました。

た。

会場になった鮫川村は、コンビニは無く、想像以上の田舎で、山に囲まれていて、小川が流れている所でした。そこに、県内各地から約三十人の小学一年生から中学一年生が集まり、ぼくが最年長でした。そこでは、石窯ビザ作り、大草原での活動、滝の散策、ウォールクライミング、じゃがいも堀りなどを行いました。やったことは、普通の田舎遊びだったけれど、震災があつてから、普通だった事ができなくなつていたので、楽しかったと同時に、原発がなければなと思いました。

また、この活動には、たくさんの人々がボランティアとして参加してもらつていました。神奈川県の高校生や大学生、明治安田生命の人三人、そしてなにより、韓国、台湾、フランスからの人たちが来ていました。全国のいろいろな所や、外国から僕たちのために来ていたいて、福島のことには忘れられないと感じました。さらに、ボランティアのみなさんのおかげで、この活動ができていますと痛感しました。

昨年は、原発事故直後で、避難や保養の

ために行つたふくしまキッズだったけれど、今年参加してみると、この活動の目的やボランティアさんのありがたさをさらに感じました。ぼくも、将来、今回のような震災などがあつた時、すすんでボランティアを行いたいと思います。

また、この活動には、国内や海外から、多くの支援金をうけて、活動が出来たと聞きました。その支援して下さった方々への感謝を忘れずに、これからも福島で生きていこうと思います。そして、大人になったら、震災前よりも、すばらしい福島をつくりたいと思います。

「きれいなまちを

未来に残すために」

福島市立信夫中学校

渡 辺 芽 依

福島市は山や川などの自然が多いところ  
です。特に荒川は日本一水質がきれいな川  
で私達がほこれる美しい川です。

私のじいちゃんの家近くには「濁川」  
という川がありますが、じいちゃんが子供  
だった頃はそこで泳いだり洗たくをしてい  
たそうです。最近、その川をのぞいてみる  
と、色にごって泳いでいた人がいた  
というのが信じられないくらい汚くなっ  
ていました。私が生まれた時もきれいではあ  
りませんでした。

もし、昔にタイムスリップが出来たら、  
きれいな川を今に持って帰って今の人達に  
見せてあげたいです。

今では、もうにごってしまった川の原因  
は私達が川やその周辺にポイ捨てをしてい  
るからだと思います。それがどんどん積み

重なっていくと、山や空気全体も汚くなっ  
てしまいます。

私が小学生の頃、荒川の近くでバーベキ  
ューをした時、周りにゴミが捨ててあった  
ことがありました。その時、

「すごく汚いなあ」

と感じていたけど、あまり深く考えずに拾  
いませんでした。たぶん、誰かが拾ってく  
れるからいいや、と考えていたんだと思い  
ます。

今、考えてみると誰かが一人でもゴミを  
捨てない、もし落ちていたら拾う、という  
気持ちを持っていれば百パーセントまちが  
きれいにならなくても、少しずつ昔のよう  
に自然が多いまちにもどっていくと思いま  
す。

ポイ捨てをしてはいけないのは、川だけ  
ではないと思います。山だって、ゴミが捨  
ててあったら拾ったほうが空気がきれいに  
感じます。

私達が今見ている景色や、きれいな鳴き  
声を聞かせてくれるコオロギ、スズムシも  
だんだん見れなくなっていくたら未来に受  
けつぐことができません。今の時代は便利

なものがどんどん開発されて、新しい家が  
どんどん建っています。そして、どんな  
自然が無くなっているような気がしてとて  
も悲しくなります。

これからはちゃんと自然に目を向けて、  
福島市にあるみどりをもっともつと豊かに  
していきたいです。

福島市民憲章の「空も水もきれいなみど  
りのまちをつくりましょう」という言葉を  
守るためには、ゴミを捨てないこと、落ち  
ていたら拾う、ということが未来に自然を  
残す第一歩だと私は強く感じました。

## 「安全と安心を見つめ直そう」

福島市立信夫中学校

沼倉 礼王

皆さんが考える、「安全」とはなんですか。また、その「安全」について皆さんはどんな風に手助けをして誰のために使っていますか。私は今回の作文を書くことについて、福島市民の「安全」と「安心」、その2つが高齢者か子どものどちらに向いているか、考えてみました。

まず、お年寄りの人への「安全」です。お年寄りの人への安全と聞いて一番最初に思い浮かぶのは「バリアフリー」だと思います。スーパールのトイレや公園のトイレなどお年寄りの方も必ず利用する「トイレ」のバリアフリーが大切だと考えています。最近では、スーパーなどに行ってトイレを使用しようと思うと、障害者の方や高齢者の方、また妊婦さんやオムツを使っている赤ちゃんがいるお母さんが利用できるトイレがあります。手すりがあり、高齢者の方も

余裕で入れるスペース、また赤ちゃんのオムツを代えられる台と高齢者のみではなく、たくさんの人々に対する、「バリアフリー」だと私は思いました。また、お年寄りの人の安心とは、やっぱり「介護」だと思います。年をとると、どうしても介護が必要になる人が出てきます。それは、私たちも同じです。しかし今、介護福祉士が不足しています。そんな、状態で高齢者は安全なのでしょうか？介護がおろそかになつたりしているのではないのでしょうか？だから私は、介護福祉士が増えない限り高齢者は安心できないと思うのです。高齢者の安心を守ることは、福島市民全体の安心のためにも大切だと思います。また、私たち子どもに関して大切だと考えているのも、やはり「安心」です。放射能の影響で外で遊べないので、安心して遊べるような施設が、もっとあればよいと思います。例えば、小さい子供に向けては、室内公園や室内プールを作ったりスポーツをしたい人には、スポーツジムや室内スポーツができる、体育館を作りスポーツといっても室内スポーツ専用で、キンボールやペタンクなどの専門

的なものを作り、体育館のわきに子供が楽しめる図書館を作ったら私はいいと思います。そうすれば、ストレスもたまらず安心だと思います。

まだまだ、福島市は安心できないことがあります。皆でそれについて考えていけばもっとよい福島市が作れると、私は、いつも考えてきました。これが、実現したら少しは安全で安心できる生活に近づけると私は思います。

## 「福島市をより良くするために」

福島市立飯野中学校

関 優 花

私が福島市について思ったことは、憲法にあるように、きまりを守ることです。最近、道に落ちているゴミをよく見かけます。これは、見ためも悪いし教育にも健康なまちづくりにもよくないと思います。ゴミのポイ捨ては、福島市民憲章に全部違反すると思います。

私が小さいころは、ポイ捨てをする友達がいたら、私がゴミを拾っていました。しかし、大きくなるにつれて、拾いにくくなり、そのまま見過ごしてしまうようになってしまうしました。そして最近、車で橋をはしっていると、前の車にのっていた人が缶を川の方へ投げるのを見てしまいました。子供のころからきまりを守らないと、大人になってもそのクセはとれないと思いました。

困るのは、私達だけではなく、福島の大

自然も困ります。私は福島 of 自然が好きです。しかし、山の中にゴミ袋やタイヤなどが捨ててあったり、川に空き缶やペットボトルが落ちていたり、見ためがよくないです。せっかくの大自然が台無しになり、残念です。これではきれいなまちではなくなってしまう。

福島市のゴミ捨ては、一人一人が自覚を持って捨てるべきだと思います。福島市民がきまりを守り、自然を大切にすることをともっと身に付けられればいいと思います。

次は、福島市民憲章にあることもからおとしよりまで安全で健康なまちづくりについてです。

最近全国で、車の事故や殺人事件、自殺などがおきています。これは、命にかかわることなので、大切なことだと思います。福島市では、いじめのカウンセラーや、事故防止のポスターなど、さまざまな取り組みをしていて、とても心強いです。これからもどんないろいろなことに取り組んで、事故、事件をなくしてほしいと思います。

福島市民憲章は、昔からの大切なきまりだと思っています。私たちもそのきまりをしつかり守って次の代に受けつぎたいと思います。

そのためにも、もっともっと福島市民憲章を広めるべきだと思います。福島市民が目に入るようなものをつくったり、みんなでよびかけたりするのも大切だと思います。もちろん、福島市民がお手本となり、他の市や県などにも広めて、日本をよくするのいいと思いました。

私たちが住む福島市を、もっとよりよい福島市にするために、福島市民憲章をみんなで守っていかたいと思います。そして、明日につながるようにしたいです。

## 「皆の力は福島之力」

福島市立飯野中学校

齋藤 柊 哉

これは、この言葉の通りです。皆の力が、強ければ強いほど、福島之力も強くなり、楽しく、安心な町づくりができます。

今、福島は、大変な状況になっています。原発の問題、放射能の問題、震災の問題など、さまざまな問題を抱えています。この時こそ、楽しく働ける町をつくる時なのです。

僕が理想とする町は、皆が力を合わせ、楽しく働き、安心できる町です。

この理由は、子供たちが満足できないことはもちろん、放射能で仕事ができないということになってしまからです。それでは、子供たちも遊べなくなってしまうし、安定した収入も得られません。それでは、福島全体が駄目になってしまいます。そんな町になるのは、もちろん駄目です。

このようなことにならないためには、ま

ず、皆が力を合わせてできることをやっていけばいいと思います。

皆が力を合わせれば、必ずよくなります。どんなに小さいことでも、皆がやれば、大きくなり、力となり、福島之力になります。なので、皆がやっていることは実際に役にたっているの、必要ないのかな、と思うのではなく、役にたとうと思えばいいと思います。

このようにやっても、きまりを守らなければよい町ができません。一番身近なきまりといえば、信号が青の時に通ることや自転車、自動車は左側通行などです。このようなきまりを守らなければ、よい町はつくれません。たとえば、信号無視をすれば事故やもしかすると大惨事になってしまいかもしれません。そのようになってしまつたら、とても安心できません。よい町にするには、きまりを守ることも必要です。

これまで紹介した中で、大事なものは、やはり仕事です。みんなが働いて、力を合わせてしっかりやれば、仕事もしつかりできます。仕事の中には、力を合わせてできるものがあります。その時は、手伝ってあげ

たり、だれかやってくれるだろうと思うのではなく、自分から手助けするのも必要だと思います。

僕がこの作文を書いて、やはり皆の力が必要なのだなと思いました。一人一人が力を出し、助け合えば、必ずといってよいほどよい町ができると思います。

## 「皆の力は福島之力」

僕はこの言葉を考えたのですが、僕が思ったことは、この言葉を考えただけではなく、覚えていつて、忘れないようにしたいです。

## 「ぼくと福島」

福島市立飯野中学校

高橋 航

ぼくはこの前東京に行ってきました。福島と比べるとやっぱり都会だし、見たこともない建物がたくさんありました。そんな東京でも福島には勝てないことがあります。それは緑の量です。東京は木が少ししか植えてなくて、それに対して福島市は周りを見たせばすぐに緑が見つかるような自然豊かな所だと思います。植物のおかげで空気がきれいだし、植物を食べたりする野生の動物もたくさんいて、ぼくもウサギやトンビなどをよく見かけます。そんな自然豊かなこの場所がいつまでもこのままであってほしいと思います。

都会と比べてみると星の見え方も変わることに気がきました。都会では夜明かりをつけすぎて、星がほとんど見えませんでした。福島では見えるのに都会では見えないので、ぼくは毎日福島の空に見える、星

が見られるので幸せだなあと感じました。これも福島のいいところだと思います。

福島はいい人がたくさんいると思います。地域の人はいつも優しく声をかけてくれています。ぼくが学校から帰って地域の人のあいさつをすると、「おかえりなさい。」と優しくかえしてくれます。ほかにも信号のない横断歩道で止まってくれたり、いろいろ話をしてくれたりします。すべてぼくにとってはうれしいことです。今、日本には自分勝手な大人もたくさんいるという状況だけど、福島市の人はとても優しい人ばかりだとぼくは思います。ぼくも大人になったら優しく声をかけてあげられるような、たよれる大人になりたいです。

福島のいいところは農業です。ぼくの家  
の祖母と祖父は農業をしています。原発の影響でぼくはほとんど食べていませんが前までは家の野菜をたくさん食べていました。今でも農業を続けていてオクラやトマトを食べたりしました。今はだいたい放射線量が減っているの少しづつ食べたりするけど、あまり食べていないし、買った野菜でも食べる機会が減っています。それでも

ぼくは農業を続けていつてほしいと思います。たとえそれをぼくが食べられなかったとしてもいつかは福島の農産物を安全に食べられるときが絶対くると思うので、ぼくもたまには手伝って、ばあちゃんといちやんを応援していきたいと思っています。

ぼくはこの作文を書いて、改めて福島市のことを見直すことができました。僕は福島市民憲章はいいものだと思います。この福島市民憲章をもとに、福島市がもっといいものになるよう、努力していきたいと思っています。

## 「親切で愛情あふれるまち福島」

福島市立飯野中学校

菅野 円 莉

福島は親切で愛情あふれるまちになると、もつと良い福島になると私は思いました。親切とは、相手への思いやりが深くていいねいゆきとどいていることだと思えます。愛情とは、人や物事を愛するあたたかな気持ちだと私は思います。東日本大震災があり、世界中の人たちに励まし、助けられ福島の絆が深まったとは思いますが、そのことを忘れないためにも親切で愛情あふれるまちにしていきたいと思います。

福島を親切で愛情あふれるまちにするにはまず、電車で満席の時、自分がいすに座っている時にお年寄りや妊婦さんが、立っていたら席をゆずってあげたり、お年寄りが重い荷物を持っていたら自分も手伝ったりなど人に親切にしてあげているのを他の人も見ていると、親切にしようと思ひみんなが親切になっていくと思います。

次にゴミの「ポイ捨て」についてです。

私は、一番環境に悪いポイ捨てがすごく嫌です。私は前に家族で海に行った時に、海はキレイだというイメージしなく楽しみにして海に行ったら、そこはゴミばかりある海で、これが今の現実なんだなあと思いました。そこには、いろんな食べかすや鳥の死がいがあり環境が汚染されているなと思いました。その他にも川、道路、山にゴミを捨てていく人がたくさんいるのでそれも原因だと思います。少しでも環境をキレイにするためにみんなが協力して、ゴミ拾いやボランティア活動をしていけば今より、良くなると思います。

次に最近のニュースで子どもが被害に合う事件が多くて、子どもを守るために必要なのは、近所とのコミュニケーションだと聞きました。コミュニケーションを良くするには近所の人に会ったらあいさつをしたり、話をしたりすることが大切だと思います。

多くの母親は、子どもをかかえて仕事をすることができないので学校や幼稚園が終わったあとに、めんどろを見られる施設

がもつと必要だと思っています。

また、放射能のえいきょうで外で遊べないので、家族で体を動かして遊べるところが必要だと思います。

最後に、今の福島をより良い福島にするためには、一人一人の心がけが大切だと思います。ゴミ拾いをするこや相手に親切な気持ちを忘れないことが大切だと思います。ポイ捨ては絶対にしない、落ちているゴミを拾うようにしていき、これらのことを心がけていきたいと思ひます。福島みんなが心がけていけば、親切で愛情あふれるまちになると思ひます。

「親切で愛情あふれるまちを

つくるには」

福島市立飯野中学校

菅野 実咲

親切で、愛情あふれるまちをつくっていくには、他人でも、こまっていたりしたら親切にしなければなりません。

私は、前に出かけたときに、バスのようなものに乗って移動しました。とってもそのバスのようなものの中は混雑していて、座る席などありませんでした。それに、その時はなぜかけっこうお年寄りが乗っていて、おばあさんなどがつえを持って大変そうに乗っていました。なのに、若い人達は、いすに座りっぱなしでした。私の立っている前に座っている人が下りて席が空いて私は座ろうと思ったけれどもわきにいたつえのおばあさんにゆずりました。そしてらそのおばあさんは、自分が下りるときに私に、「さっきはありがとうね。ここの席に座りな。本当にありがとうね。」と言って下り

ていきました。私はそのときに、親切にして、お礼の言葉をもらえるのはすごくうれしいことなんだと思いました。

他にも買い物に行ったときに、本の売り場を見ていたら、「ガタン」などと音がして見たら、だれか知らない人だったけれど、も物を袋の中から落としてしまっていました。それを、ちよつとだけ拾ってあげたら、「ありがとう。優しい子だね。」と言われてすごくうれしかったです。

でも、親切にしてもらったこともありま

す。友達とゲームセンターに行ったときに、コインゲームでコインが全然とれなかったときに、知らない人が、自分でとった大量のコインを全部私達にくれました。そのおかげで、たくさんコインをとることができました。それに、お買い物に行ったときに、上にあるものに手がとどかなくてとれないでいたら、となりにいた高校生くらいの子が、親切にとってくれました。私はそのとき小さかったので、中学生や、高校生の大きい女の人はこわいという印象があったので、そのときはすごくドキドキしま

した。でも、親切にでもらったら、すごくうれしい気持ちになりました。

だから、人に親切にするというのは、親切にしたほうも、親切にでもらったほうも、とてもうれしい気持ちになります。知らない人だからとか、足などをケガしているのにこの人は若い人だから席をゆずらなくてもいいとかいう考えではなく、もし、そのようなケガをしている人、お年寄りの人、そして何か困っている人。自分が何かできることだけでも親切に、愛情をこめてやってあげれば福島市は、もっと今以上に親切で、愛情のこもった市になると思います。

## 「未来を担うわたしたち」

福島市立飯野中学校

三 浦 晶

わたしたちのまち福島市は、川があり、木があり、新鮮な空気があるうつくしいまちです。これは、他のまちにも自慢できません。しかし、最近はこのうつくしい福島市が汚れてきていると思うようになりました。

私が、小学校四年生のころは、家の近くの川で遊び、楽しく過ごすことができました。遊ぶことができたのは、川がきれいだったおかげです。でも、五年生のときは、川に、くさい臭いがただようようになりました。これがきっかけで四年生以来、川で遊ぶことはなくなりました。当時、五年生だった幼い私は、きつこう思っていたことでしょう。だれがこんなことをしたんだろう……と。

そして、また一年がたって、私は、六年生になりました。総合的学習の時間で酸性

雨や地球温暖化などについて知りました。思い知らされました。川を汚していたのはわたしたち人間なんだ……と。このことを知ってから毎日私は、食べ物なるべく残さず食べるようになりました。川がきれいになるのを願って。また遊べる日がくるようにがんばります。

さて、このようなことがあると、自然を大切にしようとする人たちが動きます。私も、この人たちにまぎって活動したことがあります。

私の家の近くには、放置してある保育所があります。なので、子供たちにとっては絶好の遊び場となっています。しかし、レジ袋やテッシュなどが捨ててあり、汚くなっていました。その他にも窓ガラスが割れていたり危険がいっぱいでした。そこで、安全な場所にしようと地区の人たちが協力して、ごみ拾いを行うことになりました。私も、その活動にまぜてもらいました。いざ、始めてみると、タバコがあったり、地面にガラスが埋まっていたりしました。こんなに汚かったんだと、思いました。

そして、約一時間後。ようやくごみ拾い

が終了しました。いつのまにか、子供たちの遊び場は見違えるほど、きれいになっていました。私としても、良い経験になったし、この機会にごみを捨てる人がいなくなればいいなと思いました。

福島市は東京都や、大阪府など都会と比べると、自然豊かかもしれません。でも、この豊かな自然を未来の人たちに見せたい、と私は思っています。今の福島よりも、うつくしい福島を未来永劫残していきたい、他のまちにも誇れるまちづくりをしていきたいと。そのためにも、今のわたしたちがしっかり勉強して、未来を担ってきたいと思います。

## 「福島市民憲章について」

桜の聖母学院中学校

安 齋 ゆらら

私は作文を書くにあたって、この福島市民憲章をはじめて知りました。調べてみると昭和四十八年四月一日に出来たと知り、四十年前のことだとわかりました。この頃はオイルショックなど様々な事件があり、日本が混乱している時期だったようです。私は、そのようなことがあったため、つくられたと考えます。

一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。

空といえば、智恵子抄があるように、見上げると、日中はきれいな空があり、夜は、都会とは違い空にきれいな星が輝き、とてもきれいだと思います。そして、水はおいしく、みどりも深緑がきれいです。

一、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。

福島先生は伝統を教えてください、とても

いい先生です。

一、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。

福島の人々は明るく、とても優しいです。

私はそんな福島の人達はとても素敵だと思います。

一、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。

きまりを守らず、ゴミのポイ捨てなどをする人もいますが、そのゴミをひろう人の方が多いと私は感じます。

一、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。

都会と比べ、犯罪も少ないし、道路には、見守り隊などの方がいらして、安全だと思っています。

しかし、昨年の震災で、水には放射能が入り、おいしく飲んでいた水が飲めなくなった時もありました。そして、私を教えてくださいました。

でも、

「親切で愛情あふれる」

そんな福島の人がいるから、私は福島が好

きです。

私達が居心地良く暮らすために、市民憲章の事をいつまでも心がけたいと思います。